

学 生 要 覧

東京電機大学大学院未来科学研究科

2016 修士課程

TOKYO DENKI UNIVERSITY
Graduate School of Science
and Technology for Future Life
Master's Program.

2016(平成28)年度 授業日程(未来科学研究科)

前期 授業日程

	日	月	火	水	木	金	土	予定
4月						1	2	2 入学式 4 オリエンテーション 6 授業開始
	3	4	5	6	7	8	9	
				①	①	①	①	
	10	11	12	13	14	15	16	
		①	①	②	②	②	②	
	17	18	19	20	21	22	23	29 昭和の日【授業実施日】
		②	②	③	③	③	③	
	24	25	26	27	28	29	30	
		③	③	④	④	④	④	
5月	1	2	3	4	5	6	7	3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日
		④				⑤	⑤	
	8	9	10	11	12	13	14	
		⑤	④	⑤	⑤	⑥	⑥	
	15	16	17	18	19	20	21	
		⑥	⑤	⑥	⑥	⑦	⑦	
	22	23	24	25	26	27	28	
		⑦	⑥	⑦	⑦	⑧	⑧	
	29	30	31					
		⑧	⑦					
6月				1	2	3	4	
				⑧	⑧	⑨	⑨	
	5	6	7	8	9	10	11	
		⑨	⑧	⑨	⑨	⑩	⑩	
	12	13	14	15	16	17	18	
		⑩	⑨	⑩	⑩	⑪	⑪	
	19	20	21	22	23	24	25	
		⑪	⑩	⑪	⑪	⑫	⑫	
	26	27	28	29	30			
		⑫	⑪	⑫	⑫			
7月					1	2		18 海の日【授業実施日】 29 火曜日授業⑩
					⑬	⑬		
	3	4	5	6	7	8	9	
		⑬	⑫	⑬	⑬	⑭	⑭	
	10	11	12	13	14	15	16	
		⑭	⑬	⑭	⑭	⑮	⑮	
	17	18	19	20	21	22	23	
		⑮	⑭	⑮	⑮	⑯	⑯	
	24	25	26	27	28	29	30	
		⑯	⑮	⑯	⑯	火曜		
	31							3~9/9 夏季休業* 11 山の日
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

後期 授業日程

	日	月	火	水	木	金	土	予定
9月					1	2	3	10 授業開始(休校日(4/29分)) 11 創立記念日 19 敬老の日【授業実施日】 22 秋分の日【授業実施日】
	4	5	6	7	8	9	10	
							休校	
	11	12	13	14	15	16	17	
		①	①	①	①	①	①	
	18	19	20	21	22	23	24	
		②	②	②	②	②	②	
	25	26	27	28	29	30		
		③	③	③	③	③		
10月							1	10 体育の日【授業実施日】 26 休校日(7/18分) 27 休校日(9/19分) 28~29 旭祭(学園祭)による休校 29~30 旭祭(学園祭) 31 休校日(9/22分)
							③	
	2	3	4	5	6	7	8	
		④	④	④	④	④	④	
	9	10	11	12	13	14	15	
		⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	
	16	17	18	19	20	21	22	
		⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	
	23	24	25	26	27	28	29	
		⑦	⑦	休校	休校			
	30	31						1 休校日(10/10分) 3 文化の日 23 勤労感謝の日
		休校						
11月			1	2	3	4	5	
			休校	⑦	⑦	⑦	⑦	
	6	7	8	9	10	11	12	
		⑧	⑧	⑧	⑦	⑧	⑧	
	13	14	15	16	17	18	19	
		⑨	⑨	⑨	⑧	⑨	⑨	
	20	21	22	23	24	25	26	
		⑩	⑩	⑨	⑩	⑩	⑩	
	27	28	29	30				
		⑪	⑪	⑩				
12月					1	2	3	
					⑩	⑪	⑪	
	4	5	6	7	8	9	10	
		⑫	⑫	⑪	⑪	⑫	⑫	23 天皇誕生日【授業実施日】 24 年内授業終了日 26~1/6 冬季休業*
	11	12	13	14	15	16	17	
		⑬	⑬	⑫	⑫	⑬	⑬	
	18	19	20	21	22	23	24	
		⑭	⑭	⑬	⑬	⑭	⑭	
	25	26	27	28	29	30	31	1 元日 7 授業再開 9 成人の日 10 休校日(12/23分) 13~15 大学入試センター試験2号館入禁止 18~20 【修士論文予稿受付期間】 30 【修士論文締切(審査用)】 31~ 春季休業*
2017	1	2	3	4	5	6	7	
							⑮	
1月	8	9	10	11	12	13	14	
			休校	⑭	⑭			
	15	16	17	18	19	20	21	
		⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	
	22	23	24	25	26	27	28	
		⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	
	29	30	31					
2月				1	2	3	4	1~9 【修士論文試問期間】 10 【修士論文及び研究成果発表会(研究科合同)】 11 建国記念日 28 【修士論文最終締切(保存用)】
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28					
3月				1	2	3	4	17 修了式 20 春分の日
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

カレンダーの見方



授業を行わない日



授業を行う日(祝日・休日などでも授業を行う)

① など 各曜日ごとの授業回数

※ 長期休業期間(*印)は、集中講義・補講などを実施する場合があります。

※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に掲示にて周知します。

※ 休校日は2号館教室は原則として利用できません。

※ 【】内は参考として平成28年度修了年次生の予定を掲載しています。

UNIVERSITY CATALOG

学生要覧 2016 大学院編

【(公財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について】

認証評価制度は、2002(平成14)年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間(7年以内)ごとに文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受審することとなり、2004(平成16)年に導入されました。

本学は、2009(平成21)年度に(公財)大学基準協会(認証評価機関)において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定(認証期間:2010(平成22)年4月1日～2017(平成29)年3月31日)されました。

また、2013(平成25)年には、本学の教育・研究の現状について、産業界を含む外部学識者委員による客観的な視点による「外部評価」を受審し、好評価を得られました。

そして、2016(平成28)年度に第2回目となる(公財)大学基準協会(認証評価機関)による認証評価を受審する予定です。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組めます。

東京電機大学大学院 未来科学研究科

T D U プライバシーポリシー

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取り扱い

入学時および在学中を通じて収集した個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

- (1) 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
- (2) 正課授業および正課外活動のため。
- (3) 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、修学支援、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
- (4) 学生の健康管理、大学祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行うため。
- (5) 学生に対するキャリア・就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
- (6) 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
- (7) 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
- (8) 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
- (9) 学生本人および保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および一般社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
- (10) その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
- (11) その他法令に基づく場合。

学生要覧 目次

第1章 新入生の皆さんへ

高度専門家を目指してください（学長 安田 浩）	2
専門性と指導力（未来科学研究科委員長 積田 洋）	3

第2章 学修案内

未来科学研究科の教育	
東京電機大学大学院	8
未来科学研究科	10
各専攻の目的、方針、授業科目配当表及び研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ	
建築学専攻	13
情報メディア学専攻	21
ロボット・メカトロニクス学専攻	27

第3章 履修案内

1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法	36
2 履修登録	37
3 履修することができる授業科目	37
4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い	38
5 昼夜開講制の実施	38
6 授業	39
7 シラバス（講義要目）	41
8 学力考査及び成績評価	41
9 研究指導実施体制	42
10 修了要件	42
11 学位	45
12 修士論文等の取扱い	46
13 教育職員免許状	49
14 一級建築士受験資格要件（実務経験）	51
15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学	53
16 留学・海外語学研修	54
17 連携大学院協定研究所	55
18 履修証明プログラム	56
【学生ポータルサイト「DENDA I-UNIPA」操作マニュアル】	57

第4章 生活案内

1 事務取扱事項と取扱時間	93
2 主な書類の提出先と証明書の申込先	94
3 正課授業による閉館時間中の施設利用	96
4 大学院研究費による補助取扱い	96
5 学籍	97
6 学生証	99
7 学費	101
8 奨学金制度	102
9 副手制度	105
10 健康管理	106
11 保険制度	108
12 教育訓練給付制度	110
13 校友会	111
【STOP! HARASSMENT】	113

第5章 各種施設の利用

1 総合メディアセンター	118
--------------------	-----

第6章 学則及び諸規程

1 東京電機大学大学院学則	128
2 東京電機大学大学院未来科学研究科規則	137
3 東京電機大学学位規程	139
4 学生生活についての規程	142
5 東京電機大学学生救済奨学金貸与規程	145
6 東京電機大学学生支援奨学金貸与規程	147
7 東京電機大学大学院奨学金貸与規程	148

第7章 沿革

1 沿革	150
------------	-----

第8章 大学校歌・学生歌

1 東京電機大学校歌	156
2 東京電機大学学生歌	157

第9章 東京千住キャンパス案内

東京千住キャンパス案内	161
東京千住キャンパス配置図	162
東京千住キャンパスフロア配置図	163

第1章 新入生の皆さんへ

新入生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

高度専門家を目指してください

学長 安田 浩

東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科があり、博士課程（後期）は、先端科学技術研究科となります。

20 世紀後半から今日にかけて、科学技術は目覚ましい発展をし、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、すべての社会活動・産業活動の基盤となってきました。すなわち、知識・情報・技術が、これまでにないほど高い価値を持つ、知識基盤社会になってきました。

大学院修士課程は、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成、高度専門家となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度で専門的な職業を担うための卓越した能力を培う課程であります。

博士課程（後期）は、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で中核的な人材として活躍するための指導能力をも涵養する課程であります。

生産・販売を海外に移すという産業界を取り巻く環境変化は、それだけに留まらず、株主、管理運営、製造販売のグローバル化が進み、企業自体が国際企業になってきました。最近の電機業界の状況を見てもわかる通り、新しい技術への対応、開発製造のサイクルが年々短縮化しました。このような環境から、高度専門家には、新しい技術を生み出すため、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るグローバルコミュニケーション能力が、益々要求されてきています。以上述べた観点から、コースワークの充実による実質化、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられてきています。

理工系の学部生の約 40 %が大学院に進学していますが、諸外国と比べて日本の大学院の修了の若者の比率は低くなってきています。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた高度専門家の輩出が期待されています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院での研究を通じて教育を受ける院生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会のいろいろな問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。

これからの国際化、先端化、融合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識と国際的なコミュニケーション能力を東京電機大学の大学院で磨かれ、高度専門家になることを期待しています。

専門性と指導力

未来科学研究科委員長 積田 洋

未来科学研究科があなた方に提供する教育の特徴を一言でいえば、それは未来科学部における教育と大学院の6年一貫教育の連続性を失わず、かつ専門性と指導力を高めるように注意深く組み立てられているということです。したがって未来科学研究科の教育のモットーは学部と同じく「プロの能力、豊かな教養」です。

未来科学研究科や未来科学部の教育・研究の対象として、私たち教職員が考えているのは、21世紀における未来型生活空間の創生に必要な科学技術です。技術領域の観点から考えると、未来型生活空間の創生に必要な科学技術は、「人が住む生活の場を構築する建築学」、「人が住む生活の場へ知識をもたらす情報メディア学」及び「人が住む生活の場で交流を促すロボット・メカトロニクス学」の、三つの技術領域からなると私たちは考えています。未来科学研究科の三つの専攻はそれぞれの技術領域に対応しています。科学技術の使命は「人類の豊かな未来を創造すること」でありますから、未来科学研究科の教育・研究はその使命の実現そのものであるということが出来ます。

未来科学研究科では、特に「豊かな教養科目」を設けて、3専攻の学生諸君が共通して受講することを期待しています。これは私たちが、技術領域ごとに異なる技術に対する考え方、いわば領域固有の技術思想について、自分の専攻とは異なる領域の人たちの考え方を理解する心を、あなた方が身につけることを期待してのことです。社会に出て、他分野の人と一緒に仕事をするとき、この心は必ずやあなた方を豊かな交流の場に導いてくれるでしょう。

この要覧は、未来科学研究科で生活するときに、また学園生活を有意義なものにするために必要ないろいろな規則や情報をまとめたもので、言わば学園生活におけるバイブルというべきものです。折にふれてこの要覧を活用され、何か困ったことがあったら、まずこの要覧を参照されることを勧めます。きっと困難を解決することが出来ます。それでも問題が残るときは、2号館3階の事務部を訪ね事務の人に相談してください。

私たち未来科学研究科の教職員は、あなた方が学部生として4年間で学んだいろいろな知識の上に、さらに大学院修士課程の2年間の学習経験を積み重ねることによって、人から信頼される確かな仕事ができる「プロの能力」と、自己の立場を理解し、周囲と調和した行動ができる「豊かな教養」を併せ持つだけでなく、より高度な専門性を持ち、集団を率いる指導力を持った技術者に成長されることを衷心より願うものです。

新入生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第2章 学修案内

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

未来科学研究科の教育

東京電機大学大学院

建学の精神 「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

教育・研究理念 「技術は人なり」

1949 年（昭和 24 年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

修士課程：所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に修士の学位を授与します。

- （1）専門分野の先端的知識および関連分野の基礎知識をもつこと。
- （2）与えられた基礎的問題（または課題）を解決し、それを発表できる能力をもつこと。
- （3）成果を論文（または作品）としてまとめ、審査に合格すること。

博士課程：所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に博士の学位を授与します。

- （1）広範囲で高度な先端的知識を有すること。
- （2）専門性が要求される問題を自立的に発見解決し、国際的な場において発表・討論できる能力をもつこと。
- （3）研究成果を博士論文としてまとめ、審査に合格すること。

※標準修業年限は、修士課程は 2 年、博士課程（後期）は 3 年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

修士課程では、各研究科、専攻の教育研究理念に沿って、
コースワークとして、

- (1) 専門分野の先端的知識を身に付ける科目
 - (2) 幅広い知識と判断力、思考力、表現力を身に付ける科目
- リサーチワークとして、
- (3) 専門分野の最先端の知識に基づいた課題解決能力を身に付ける科目
 - (4) 成果を論文（または作品）としてまとめ、また、それを発表する能力を身に付ける科目
- を体系的に配置します。

博士課程では、各研究科、専攻の教育研究理念に沿って、
コースワークとして、

- (1) 高度で広範な先端的知識を身に付け、社会が直面する問題を洞察する力を涵養する科目
 - (2) 国際的な場において発表・討論するための能力を涵養する科目
- リサーチワークとして、
- (3) 専門性が要求される問題を自立的に発見解決するための能力を培う科目
 - (4) 研究を実践し、その成果を博士論文としてまとめる能力を培う科目
- を体系的に配置します。

未来科学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

未来科学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを発展する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科は、本研究科に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者を、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用し、かつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性及び創造性を有する高度専門科学技術者と認定し、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）本学の建学の精神「実学尊重」と教育・研究理念「技術は人なり」に基づく、本研究科の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に沿って編成した教育課程から、必要な単位を修得すること。
- （2）論文審査（専攻により、論文審査に代わる特定の課題についての成果物の審査）に合格すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科は、基礎となる未来科学部の教育研究と整合性・連携性を図っており、学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラム編成を柱とします。

高い基礎学力と専門分野の高度な知識、かつ社会で即戦力として期待される高い専門性を有する能力を培うために、専攻の専門領域科目に加えて、研究・実習科目及びインターンシップ科目を体系的かつ効果的に配置し、「プロの能力」を有する人材を養成します。

さらに、未来の生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）の創生に必要な、異分野の技術の知識を身につけるために、3専攻（建築学、情報メディア学、ロボット・メカトロニクス学）の分野が融合する学際性を涵養する科目、国際性とバランス感覚を涵養する科目を配置し、「豊かな教養」を有する人材を養成します。

以上の考えに基づき、教育課程を編成し、実施します。

各専攻の目的、方針、 授業科目配当表及び 研究指導教員等の専門分野と 指導研究テーマ

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

建 築 学 専 攻

Architecture and Building Engineering

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

建築学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、建築学の「建築計画・意匠」「建築構造・情報」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科の建築学専攻は、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者を、建築学の「建築計画・意匠」「建築構造・情報」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門科学技術者・設計者・研究者と認定し、修士（工学）の学位を授与します。

- （１）本研究科の教育理念「プロの能力、豊かな教養」に基づく、本専攻の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に沿って編成された教育課程から、必要な単位を修得すること。
- （２）論文審査（論文審査に代わる特定の課題についての成果物の審査）に合格すること。

※標準修業年限は２年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科の建築学専攻は、問題を発見・認識・解決できる統合力を身につけさせるために、高度で専門な研究・設計能力を培う科目とインターンシップ等の実学を柱とします。

学生は、専門分野の研究と設計を通して、課題を探究することでものづくりの本質を知り、同時に、インターンシップ等により社会との接点を学び、コミュニケーション能力、協働する力を身につけます。また、海外との授業及び研究の交流を通して国際性を身につけます。

こうした高度な専門性と、それを社会に役立てることができる素養を身につけるための教育課程を編成し、実施します。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職 形 態	建築士 登録 資格 取得			
		H28	H29										Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
専門研究	建築学特別設計Ⅰ	随時	随時	1	2	選(※)	1	通年	常	研究指導教員ほか	修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム(研究コース)」又は「職能教育プログラム(スタジオコース)」のいずれかを択一必修として、履修、合格しなければならない。入学時に決定したプログラム(コース)は、在学中変更できない。					
	建築学特別設計Ⅱ	随時	随時	1	2	選(※)	2	通年	常	研究指導教員ほか						
	建築学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	選(※)	1	通年	常	研究指導教員ほか	※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。					
	建築学特別研究Ⅱ	随時	随時	2	4	選(※)	2	通年	常	研究指導教員ほか	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。					
空間 デザイン	建築空間デザイン論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	積田 洋		工業	開講	○	○	
	建築形態論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	山本 圭介		工業	開講	○		
	都市デザイン論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	土田 寛	公開科目	工業	開講	○		
	地域施設計画論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	山田 あすか		工業	開講	○		
	近代建築論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横手 義洋		工業	開講	○		
	環境情報デザイン論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	渡邊 朗子			開講	○	○	
工学 デザイン	建築鋼構造論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	山川 誠		工業	開講		○	
	建築ハイブリッド構造論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	立花 正彦		工業	開講		○	
	建築構造設計論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	今川 憲英ほか		工業	開講		○	
	コンピューターによる骨組解析論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	西田 明美			開講		○	
	建築環境形成技術論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	百田 真史		工業	開講		○	
専攻 共通科目	建築環境心理生理	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	秋田 剛	公開科目	工業	開講	○	○	
	建築環境形成論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	射場本 忠彦		工業	開講		○	
	建築生産論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	兼光 知巳		工業	開講	○	○	
	コンピューターデザイン論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	朝山 秀一		工業	開講		○	
	建築防災工学論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	安部 武雄			開講		○	
	安全建築都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非△	山内 泰之			開講		○	○
	空間構造形成論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非△	登坂 宣好			開講		○	
	構造デザイン認識論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	今川 憲英		工業	開講		○	
	統計解析法		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮崎 桂						
	建築学実習Ⅰ	●	●	2	2(※)	選	1・2	半期(前)	常	研究指導教員ほか	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」を履修、合格しなければならない。 ※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」が履修可能。	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅱ	●	●	2	2(※)	選	1・2	半期(後)	常	研究指導教員ほか		工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅲ	●	●	2	2(※)	選	1・2	半期(前)	常	研究指導教員ほか			イン	○	○	○
	建築学実習Ⅳ	●	●	2	2	選	1・2	半期(後)	常	研究指導教員ほか		工業	イン	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常	研究指導教員ほか	在学中に2級建築士を取得した場合は、「建築技術・知識演習Ⅱ」の単位を認定する。	工業	開演	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅱ	○●	○●	1	2	必	1	半期(後)	常	研究指導教員ほか		工業	開演	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅲ	○	○	1	2	選	2	半期(前)	常	研究指導教員ほか		工業	開演	○	○	○

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職	建築士			
		H28	H29										形態	意匠	設備	
専攻 共通科目	インターンシップⅤ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前前) 四半期(後前)	常	研究指導教員	「インターンシップⅤ～Ⅹ」および「建築学専門研修Ⅰ・Ⅱ」の中から2科目以上必ず修得すること。 (一級建築士受験資格要件の実務経験2年を取得する場合は、「インターンシップⅤ～Ⅹ」および「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」の中から計14単位以上修得する必要がある。詳細は、「(14.一級建築士受験資格要件)」にて確認のこと。)		イン	○	○	○
	インターンシップⅥ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前後) 四半期(後後)	常	研究指導教員			イン	○	○	○
	インターンシップⅦ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後前)	常	研究指導教員			イン	○	○	○
	インターンシップⅧ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後後)	常	研究指導教員			イン	○	○	○
	インターンシップⅨ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前前)	常	研究指導教員			イン	○	○	○
	インターンシップⅩ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前後)	常	研究指導教員			イン	○	○	○
	建築学専門研修Ⅰ	○	○	随時	2	選	1・2	半期(前)	常	研究指導教員						
	建築学専門研修Ⅱ	○	○	随時	2	選	1・2	半期(後)	常	研究指導教員						
「豊かな 教養」科目	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	安田 浩	公開科目					
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	安田 浩	公開科目					
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	小松原 聡						
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	小松原 聡						
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	専攻主任	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する					
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中	常*	KMFコース主任ほか	1年生のみ履修可能					
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせ て開講					
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講					

注1)開講区分欄「●○」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講
注2)常勤非常勤欄「△」＝客員教員
注3)イン…インターンシップ科目(実務経験2年の場合は14単位以上、実務経験1年の場合は4単位以上修得のこと。)
開演…インターンシップ関連演習科目(上限8単位)
開講…インターンシップ関連講義科目(上限8単位)
注4)「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2016（平成 28 年度）カリキュラム
建築学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

	分野（部門）	1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専門性の涵養 ①：インターンシップ科目 ②：インターンシップ関連の演習科目 ③：インターンシップを補助する意味での座学系科目	専門研究	建築学特別設計Ⅰ	2	建築学特別設計Ⅱ	2
		建築学特別研究Ⅰ	4	建築学特別研究Ⅱ	4
	空間デザイン	建築空間デザイン論 ③	2	都市デザイン論 ③	2
		都市デザイン論 ③	2	近代建築論 ③	2
		地域施設計画論 ③	2	環境情報デザイン論 ③	2
	工学デザイン	建築構造設計論 ③	2	建築環境形成技術論 ③	2
		コンピューターによる骨組解析論③	2	建築鋼構造論 ③	2
				建築ハイブリッド構造論 ③	2
	専攻共通科目	建築環境心理生理 ③	2	建築生産論 ③	2
		空間構造創成論 ③	2	コンピュータデザイン論 ③	2
				建築環境形成論 ③	2
				建築防災工学論 ③	2
キャリア形成	<注 2> インターンシップ V～X は全て①：インターンシップ科目	建築学実習Ⅰ ①	2	建築学実習Ⅱ ①	2
		建築学実習Ⅲ ①	2	建築学実習Ⅳ ①	2
		建築技術・知識演習Ⅰ ②	2	建築技術・知識演習Ⅱ ②	2
		インターンシップⅤ	2	インターンシップⅥ	2
		インターンシップⅦ	4	インターンシップⅧ	4
		建築学専門研修Ⅰ	2	建築学専門研修Ⅱ	2
学際性の涵養	「豊かな教養」科目	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	2	デジタル放送論	2
		ITとビジネスモデルA	2	ITとビジネスモデルB	2
国際性の涵養	研究科共通科目	科学英語Ⅰ（集中）	2	科学英語Ⅰ（集中）	2
		Practical English for Global Engineers(集中)	2		
		MOT概論	2	MOT概論	2
		融合技術戦略特論（集中）	2		

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※科目毎の一級建築士実務経験に係る単位認定との対応状況については、科目配当表に記載

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《建築学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
秋 田 剛 ☆ 1 号館 10703B (3314)	・ 音環境 ・ 環境心理生理	・ 生体情報計測による建築環境の評価 ・ 音楽演奏時の環境認知と行動制御について ・ オノマトペを用いた建築環境の表現と評価 ・ 建築環境認知理論の体系化とその環境デザインへの応用
朝 山 秀 一 1 号館 10716B (3308)	・ 建築振動学 ・ 建築分野へのコンピュータ応用	・ 建築構造物の地震応答 ・ 自然の形態システムを用いた空間構造 ・ フラクタル理論を応用した建築骨組 ・ 複雑系としての建築要素の配置シミュレーション
射 場 本 忠 彦 1 号館 10715B (3305)	・ 建築環境工学の中の熱環境 ・ 建築設備	・ 氷蓄熱空調システムに関する研究 ・ 氷水スラリーによる地域冷房に関する研究 ・ 窓際環境の快適性と省エネルギーに関する研究 ・ 大温度差・変動微風空調に関する研究
今 川 憲 英 1 号館 10712B (3307)	・ 構造デザイン ・ 保存と再生 ・ デザイン認識 ・ 耐震システム ・ ハイブリッド構造	・ iCO2 エコストラクチャ構造の寿命の研究 ・ 様々な素材の長寿命とジョイントに関する研究 ・ デザインが活きる耐震・リノベーションデザインの研究 ・ 関数を用いた構造デザイン認識と CO ₂ 削減の研究
立 花 正 彦 1 号館 10713B (3302)	・ 建築構造 ・ 建築生産	・ 鉄骨鉄筋コンクリート構造の力学的性状 ・ ハイブリッド部材の開発と力学的挙動に関する研究 ・ 木質構造に関する開発研究 ・ コンクリート系構造の耐震補強と補修
土 田 寛 1 号館 10704B (3312)	・ 都市デザイン ・ プロジェクトデザイン ・ 景観デザイン ・ 都市計画	・ プロジェクトデザインに関するプロセスの構築とコンセンサスの形成 ・ 地域文脈の解析（資源の発掘と意味づけ）と地域整備コンセプトの形成 ・ 都市のかたちと都市計画（形態規制とコントロール）・グランドデザインとの関係 ・ パブリックスペースに内在する空間構成（機能・用途別）把握と社会的行動

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
積 田 洋 1 号館 10701B (3339)	・ 建築計画 ・ 空間計画 ・ 設計計画	・ 街路・都市景観の研究 ・ 精神科病院の空間構成の研究 ・ ランドスケープデザインの研究 ・ 建築の内部空間構成の研究 ・ 空間の認知把握に関する研究 ・ 空間の移ろいに関する研究
松 下 希 和 1 号館 10603B (3320)	・ 建築デザイン ・ 室内環境デザイン	・ 住居空間の計画とその歴史的考証 ・ リノベーションの研究 ・ 建築のプレゼンテーションに関する研究
宮 崎 桂 4 号館 40903B (3912)	・ 位相幾何学 ・ 結び目理論	
百 田 真 史 1 号館 10604A (3321)	・ 建築環境工学 ・ 建築設備	・ 空調システムの省エネルギー化に関する研究 ・ エネルギーの面的利用に関する研究
柳 原 隆 司 1 号館 10603A (3340)	・ 建築環境工学 ・ 建築の省エネルギー・省CO2 ・ 建築設備制御	・ 空気調和用熱源システムの効率化に関する研究 ・ 空気調和設備の省エネルギー・省CO2制御に関する研究 ・ 需要サイドのスマートグリッドによる省エネルギー・電力負荷平準化に関する研究 ・ ZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）化に資する建築および建築設備のあり方に関する研究 ・ 潜熱・顕熱分離空調システムに関する研究
山 川 誠 1 号館 10712B (3304)	・ 建築構造学 ・ 耐震工学 ・ 応用力学	・ 高層建築物や大空間建築物の実用的最適設計 ・ 意匠・計画上の要求と構造性能の要求を統合した設計システム ・ 各種制振・免震装置を組み込んだ高性能建築物の数理的設計法 ・ 新材料の力学モデル開発および構造設計理論の構築
山 本 圭 介 1 号館 10708B (3310)	・ 建築設計 ・ 建築意匠 ・ 建築計画	・ 都市居住空間の研究 ・ 建築空間の形態的研究 ・ 建築空間における部位別デザイン手法の研究

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
山 田 あ す か 1 号 館 10705B (3311)	・ 建築計画 ・ 環境行動	・ 医療・福祉・教育のための建築や都市空間での空間構成や人々の行動特性、居場所の選択に関する研究 ・ 環境づくりの方法・意義の検証と普及に関する研究 ・ こどもや高齢者・障がいのある人の生活の場としての都市環境のあり方に関する研究
横 手 義 洋 1 号 館 10707B (3338)	・ 建築史 ・ 建築保存	・ 歴史的建造物の活用 ・ 西洋建築史・近代建築史研究 ・ 建築美学／建築論
渡 邊 朗 子 1 号 館 10604B (3322)	・ 建築空間の計画・設計 ・ 生活環境デザイン ・ 情報技術システムの建築への応用	人間—環境系デザイン理論をもとに、未来社会の諸問題に対応した建築・都市（地域）・生活空間デザインを探求 ・ 高齢者が生き生きと暮らせる建築・地域・生活環境デザインの研究 ・ 知的活動を向上させるオフィスデザインの研究 ・ 住居と地域コミュニティのデザインに関する研究 ・ 建築・住居のリノベーションデザインに関する研究 ・ 公共建築の再編デザインに関する研究 ・ 生命に学ぶ建築・都市（地域）デザインの研究 ・ ロボットと共生する生活空間デザインの研究 ・ デジタル技術を応用した建築デザインの研究

☆：専攻主任
 ※客員教授：登 坂 宣 好
 ※ ：山 内 泰 之

情報メディア学専攻

Information Systems and Multimedia Design

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

情報メディア学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科の情報メディア学専攻は、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者を、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者と認定し、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）本研究科の教育理念「プロの能力、豊かな教養」に基づく、本専攻の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に沿って編成された教育課程から、必要な単位を修得すること。
- （2）論文審査（論文審査に代わる特定の課題についての成果物の審査）に合格すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科の情報メディア学専攻は、基礎となる未来科学部の教育研究と整合性・連携性を図り、学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラム編成を柱とします。

高い基礎学力と専門分野の高度な知識、かつ社会で即戦力として期待される高い専門性を有する能力を培うために、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門に関する専門領域科目に加えて、研究・実習科目及びインターンシップ科目を体系的かつ効果的に配置し、「プロの能力」を養成します。

さらに、未来の生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）の創生に必要な、異分野の技術の知識を身につけるために、3専攻（建築学、情報メディア学、ロボット・メカトロニクス学）の分野が融合する学際性を涵養する科目、国際性とバランス感覚を涵養する科目を配置し、「豊かな教養」を有する人材を養成します。
以上の考えに基づき、教育課程を編成し、実施します。

部門	科目名	開講年度 開講区分 H28 H29	コマ	単位数	必選自	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
専門研究	情報メディア学特別演習ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常	鉄谷 信二ほか	
	情報メディア学特別演習ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常	中島 克人ほか	
	情報メディア学特別演習ⅡA	随時	随時	2	2	必	2	半期(前)	常	鉄谷 信二ほか	
	情報メディア学特別演習ⅡB	随時	随時	2	2	必	2	半期(後)	常	中島 克人ほか	
	情報メディア学特別研究ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常	研究指導教員	
	情報メディア学特別研究ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常	研究指導教員	
	情報メディア学特別研究ⅡA	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常	研究指導教員	※高度専門プログラム履修者は「情報メディア学特別研究ⅡA」と「情報メディア学特別研究ⅡB」の履修が必要である。 ※職能教育プログラム履修者は「情報メディア学特別制作A」と「情報メディア学特別制作B」の履修が必要である。
	情報メディア学特別研究ⅡB	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常	研究指導教員	
	情報メディア学特別制作A	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常	研究指導教員	
	情報メディア学特別制作B	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常	研究指導教員	
メディア	音メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小坂 直敏	情報
	コンピュータグラフィックス特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	齊藤 剛	公開科目
	ビジュアルコンピューティング特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	高橋 時市郎	情報
	画像システム工学特論	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	星野 坦之	平成29年度以降開講せず
	メディア応用特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	鉄谷 信二	情報
	言語メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	絹川 博之	情報
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	安田 浩	公開科目
	造形・デザイン特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	谷口 守孝	情報
	ユーザビリティと心理学	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	黒須 正明	情報
情報	人間情報システム特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	川澄 正史	情報
	ビジネス情報システム特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	矢島 敏士	情報
	ソフトウェアアーキテクチャ特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	増田 英孝	公開科目
	データベース特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	非	相原 健郎	情報
	デジタル・フォレンジック	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	佐々木 良一	情報
	サイバーセキュリティ基盤	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	岩井 将行	情報
	インテリジェントコンピューティング特論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	中島 克人	平成29年度以降開講せず
	オペレーティングシステム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	並木 美太郎	情報
	生体情報学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小山 裕徳	情報
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	安田 浩	公開科目
	情報セキュリティマネジメントとガバナンス	●	●	1	2	自	1・2	半期(後)	常	安田 浩	
	セキュアシステム設計・開発	○	○	1	2	自	1・2	半期(後)	常	安田 浩	集中講義形式
	サイバーディフェンス実践演習	○	○	1	2	自	1・2	半期(前)	常*	八旗 博史	集中講義形式
専攻 共通科目	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常	研究指導教員	
	IT最前線	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	中島 克人ほか	
「豊かな教 養」科目	安全建築都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非△	山内 泰之	
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	小松原 聡	
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	小松原 聡	
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	専攻主任	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中	常*	KMFコース主任	1年生のみ履修可能
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業 時間に合わせて開講
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講

※ 修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」または「職能教育プログラム」のいずれかを統一必修として、履修合格しなければならない。

注1) 開講区分欄 「●○」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

注2) 「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2016（平成 28）年度カリキュラム

情報メディア学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専門性の涵養	専門研究	情報メディア学特別演習ⅠA 2	情報メディア学特別演習ⅠB 2	情報メディア学特別演習ⅡA 2	情報メディア学特別演習ⅡB 2
		情報メディア学特別研究ⅠA 2	情報メディア学特別研究ⅠB 2	情報メディア学特別研究ⅡA 2 情報メディア学特別制作A 2	情報メディア学特別研究ⅡB 2 情報メディア学特別制作B 2
	メディア	音メディア特論 2	コンピュータグラフィックス特論 2	音メディア特論 2	コンピュータグラフィックス特論 2
		ビジュアルコンピューティング特論 2	言語メディア特論 2	ビジュアルコンピューティング特論 2	言語メディア特論 2
		画像システム工学特論 2	デジタル放送論 2		デジタル放送論 2
		メディア応用特論 2	ユーザビリティと心理学 2	メディア応用特論 2	ユーザビリティと心理学 2
		造形・デザイン特論 2		造形・デザイン特論 2	
	情報	人間情報システム特論 2	ビジネス情報システム特論 2	人間情報システム特論 2	ビジネス情報システム特論 2
		データベース特論 2	ソフトウェアアーキテクチャ特論 2	データベース特論 2	ソフトウェアアーキテクチャ特論 2
		サイバーセキュリティ基盤 2	デジタル・フォレンジック 2	サイバーセキュリティ基盤 2	デジタル・フォレンジック 2
		オペレーティングシステム特論 2	インテリジェントコンピューティング特論 2	オペレーティングシステム特論 2	
		セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2	情報セキュリティマネジメントとガバナンス 2	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2	情報セキュリティマネジメントとガバナンス 2
		生体情報学特論 2	セキュアシステム設計・開発 2	生体情報学特論 2	セキュアシステム設計・開発 2
		サイバーディフェンス実践演習 2		サイバーディフェンス実践演習 2	
キャリア形成	専攻共通科目	インターンシップ 2		インターンシップ 2	
		IT 最前線 2		IT 最前線 2	
学際性の涵養	「豊かな教養」科目	IT とビジネスモデル A 2	IT とビジネスモデル B 2	IT とビジネスモデル A 2	IT とビジネスモデル B 2 安全建築都市システム論 2
国際性の涵養	研究科共通科目	科学英語Ⅰ（集中） 2		科学英語Ⅰ（集中） 2	
		Practical English for Global Engineers（集中） 2			
			MOT 概論 2		MOT 概論 2
				融合技術戦略特論（集中） 2	

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《情報メディア学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 し て い る 主 な 研 究 テ ー マ
猪 俣 敦 夫 1号館 11118A (2818)	・ 情報セキュリティ ・ インターネット工学	・ 暗号理論とその高速実装 ・ マルウェア、サイバー攻撃に関する静的・動的解析技術 ・ IoT・センサネットワーク制御技術
岩 井 将 行 1号館 11107A (2817)	・ ユビキタスコンピューティング ・ センサネットワーク	・ 時空間・時系列データ処理 ・ クラウドソーシング技術 ・ モバイルコンピューティング技術 ・ センサネットワーク理論・応用 ・ IoT・WoT 組込デバイス
小 坂 直 敏 1号館 11103A (2804)	・ コンピュータ音楽 ・ 音声表現・合成・加工	・ 信号モデルによる音声・楽音の合成・加工方式 ・ コンピュータ音楽制作のための音合成システム ・ 作曲支援システム ・ コンピュータ音楽制作
川 澄 正 史 1号館 11103B (2806)	・ 生体情報解析 ・ アクセシビリティ	・ コミュニケーション支援技術 ・ 視覚情報処理 ・ 歩行解析 ・ 生体情報のセンシング技術と応用
絹 川 博 之 1号館 11102A (2810)	・ 自然言語処理 ・ 情報検索	・ Blog・Web 情報の検索・推薦システム ・ 電子テキストフィルタリング ・ 外国人向け日本語学習支援システム ・ ソーシャルブックマーク活用方式
小 山 裕 徳 1号館 11105B (2803)	・ 生体情報処理 ・ コミュニケーション・学習支援技術	・ 生体情報処理 ・ コミュニケーション支援システム ・ 学習支援システム
齊 藤 剛 1号館 11102B (2807)	・ 形状処理 ・ コンピュータグラフィックス	・ 意匠形状の特徴解析と創成 ・ モーションデータの解析と特徴表示 ・ 実環境と仮想空間の融合
佐 々 木 良 一 1号館 11106A (2805)	・ 情報セキュリティ	・ ウイルス対策・不正侵入防止技術 ・ デジタルデータの証拠性保全技術 ・ IT リスクコミュニケーション技術

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
高 橋 時 市 郎 1 号 館 11404B (2808)	・ コンピュータグラフィックス ・ アニメーション・可視化 ・ 画像処理・パターン認識 ・ 学習科学	・ 写實的・非写實的な映像生成技術 ・ リアルタイム・インタラクティブ・CG 技術 ・ 3DCG による都市景観・江戸の町並み復元技術 ・ 学習履歴・Web 閲覧履歴の可視化技術
鉄 谷 信 二 1 号 館 11405A (2802)	・ 映像評価 ・ 臨場感 ・ 視覚心理	・ 映像コンテンツのための評価法 ・ 五感を利用した臨場感再現技術 ・ 視覚心理に関する研究
中 島 克 人 ☆ 1 号 館 11104B (2812)	・ 知的計算システム ・ 画像認識 ・ 画像処理	・ 動画画像認識とその応用 ・ プロジェクタとカメラによる VR および インタフェースの研究 ・ 対話的な画像生成・編集の研究
星 野 坦 之 1 号 館 11404A (2816)	・ 色彩情報処理 ・ 画像記録システム ・ 画像表現	・ 表示印刷画像の色変換 ・ 画像システムの入出力処理 ・ 輪郭強調・彩度変換の最適化処理
増 田 英 孝 1 号 館 11104A (2815)	・ Web 情報検索 ・ ソーシャルメディア ・ インタラクティブシステム ・ オブジェクト指向技術	・ Twitter の解析と情報抽出 ・ Wikipedia の解析と情報抽出 ・ 図書館における自動レファレンスサービス ・ Web からの動向情報の抽出と可視化
宮 添 輝 美 4 号 館 41008A (3707)	・ 教育情報工学 ・ 遠隔教育学 ・ e ラーニング ・ CALL	・ Wikipedia の信頼性についての意識調査 ・ スマホとウェブにおける業種間広告の差 ・ e ラーニングにおけるインタアクション デザインの定量化と対費用効果
矢 島 敬 士 1 号 館 11105A (2809)	・ 情報システム ・ 知識管理 ・ 意思決定支援	・ 医療・福祉介護トータルシステムにおける情報 共有、意思決定支援技術の研究 ・ 集団意思決定支援システムの研究 ・ プロジェクト・マネジメントにおける情報管理 ・モチベーション管理技術の研究

☆：専攻主任

ロボット・メカトロニクス学専攻

Robotics and Mechatronics

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

ロボット・メカトロニクス学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを発展する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の創造性を有する高度科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科のロボット・メカトロニクス学専攻は、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者を、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者と認定し、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）本研究科の教育理念「プロの能力、豊かな教養」に基づく、本専攻の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に沿って編成された教育課程から、必要な単位を修得すること。
- （2）論文審査に合格すること。

※標準修業年限は２年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科のロボット・メカトロニクス学専攻は、集団指導体制のもと、専門分野のみに特化することなく分野を横断し、常に新しい領域に挑戦する気概を持った国際性豊かな人材を養成する教育課程編成を柱とします。

具体的には、日常生活、医療、福祉、防災などの分野において有用な、ロボット工学やメカトロニクス学に関する技術の開発と、社会への応用展開を担う人材を養成する教育課程を編成し、実施します。

平成28・29年度 授業科目配当表 ロボット・メカトロニクス学専攻 修士課程

2016(平成28)年度入学者用カリキュラム

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H28	H29									
専門研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	必	1	通年	常	研究指導教員		
	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ	随時	随時	2	4	必	2	通年	常	研究指導教員		
	特別輪講ⅠA	随時	随時	1	1	必	1	半期(前)	常	研究指導教員		
	特別輪講ⅠB	随時	随時	1	1	必	1	半期(後)	常	研究指導教員		
	特別輪講ⅡA	随時	随時	1	1	必	2	半期(前)	常	研究指導教員		
	特別輪講ⅡB	随時	随時	1	1	必	2	半期(後)	常	研究指導教員		
情報駆動 システム	コンピュータネットワーク特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	松垣 博章	公開科目	工業
	コンピュータシミュレーション特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	古賀 雅伸	「コンピュータシミュレーション特論」は、集中講義で開講	
	最適化法特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	沙月 哲夫		
	非線形制御特論(英語対応)	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	岩瀬 将実	英語対応：履修者の希望により、英語による授業、または英語による質疑応答への対応を可能とする科目。	工業
	システムと信号特論(英語対応)	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	畠山 省四朗		工業
	アドバンスドコントロール特論(英語対応)	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	沙月 哲夫ほか		工業
メカトロニクス	信号処理特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	花崎 泉		工業
	アドバンスドメカトロニクス特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	釜道 紀浩	情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門の科目から8単位以上必ず修得すること。	工業
	計測標準論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	大園 成夫ほか		工業
	インフォメーションインターフェース特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横山 智紀		
ロボット・ デザイン	ロボットインターフェース特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	鈴木 聡		工業
	ロボットプログラミング特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	山北 昌毅		工業
	アドバンスド・ロボティクス	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	石川 潤ほか		工業
	エネルギー変換学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	国吉 光		工業
	知能システム特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	中村 明生		工業
	ロボット設計特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	石川 潤		工業
専攻 共通科目	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	三井 浩康	専攻共通科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。	
	エンジニアリング・ビジネスA	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	非		エンジニアリング・ビジネスA 平成28年度開講せず	工業
	エンジニアリング・ビジネスB	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非		エンジニアリング・ビジネスB 平成28年度開講せず	工業
	プロジェクト型ワークショップ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常	研究指導教員ほか		
	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常	研究指導教員		
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	小松原 聡		
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	小松原 聡		
「豊かな教 養」科目	安全建築都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非△	山内 泰之	「豊かな教養」科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。	
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	安田 浩	公開科目	
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	安田 浩	公開科目	
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	専攻主任	コロド大学英語短期研修 専攻主任が担当する	
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中	常*	KMFコース主任ほか	1年生のみ履修可能	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講	
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	

注1) 開講区分：●○＝昼夜開講、○＝昼間開講、●＝夜間開講、随時＝随時開講
注2) 「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2016（平成 28）年度カリキュラム

ロボット・メカトロニクス学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専門性の涵養	専門研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ 4		ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ 4	
		特別輪講ⅠA 1	特別輪講ⅠB 1	特別輪講ⅡA 1	特別輪講ⅡB 1
	情報駆動システム	コンピュータシミュレーション特論 2	コンピュータネットワーク特論 2	コンピュータシミュレーション特論 2	コンピュータネットワーク特論 2
		非線形制御特論（英語対応） 2	最適化法特論 2	非線形制御特論（英語対応） 2	最適化法特論 2
			システムと信号特論 2（英語対応）		システムと信号特論 2（英語対応）
	メカトロニクス		アドバンスドコントロール特論（英語対応） 2		アドバンスドコントロール特論（英語対応） 2
		信号処理特論 2	計測標準論 2	信号処理特論 2	計測標準論 2
	ロボット・デザイン	アドバンスドメカトロニクス特論 2	インフォメーションインターフェース特論 2	アドバンスドメカトロニクス特論 2	インフォメーションインターフェース特論 2
		ロボットプランニング特論 2	ロボットインターフェース特論 2	ロボットプランニング特論 2	ロボットインターフェース特論 2
		アドバンスド・ロボティクス 2	知能システム特論 2	アドバンスド・ロボティクス 2	知能システム特論 2
		ロボット設計特論 2		ロボット設計特論 2	
キャリア形成	専攻共通科目	エネルギー変換学特論 2		エネルギー変換学特論 2	
		産業別企業研究特論 2	エンジニアリング・ビジネスB 2	産業別企業研究特論 2	エンジニアリング・ビジネスB 2
		エンジニアリング・ビジネスA 2	ITとビジネスモデルB 2	エンジニアリング・ビジネスA 2	ITとビジネスモデルB 2
		プロジェクト型ワークショップ 2		プロジェクト型ワークショップ 2	
		ITとビジネスモデルA 2		ITとビジネスモデルA 2	
学際性の涵養	「豊かな教養」科目	インターンシップ 2		インターンシップ 2	
		セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2	デジタル放送論 2	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2	デジタル放送論 2
					安全建築都市システム論 2
国際性の涵養	研究科共通科目	科学英語Ⅰ（集中） 2		科学英語Ⅰ（集中） 2	
		Practical English for Global Engineers（集中） 2			
			MOT概論 2		MOT概論 2
				融合技術戦略特論（集中） 2	

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《ロボット・メカトロニクス学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 し て い る 主 な 研 究 テ ー マ
石 川 潤 1号館 11014B (2615)	・ロボティクス ・制御工学	・ロボットの高機能モーションコントロール ・福祉・医療分野のメカトロニクス制御技術 ・ナノスケールの高速・高精度サーボ技術 ・人道目的の対人地雷探知・除去技術
岩 瀬 将 美 1号館 11002A (2618)	・情報駆動システム制御 ・制御工学 ・ロボティクス	・自動車エンジンなどの非線形システムのモデリングと制御 ・筋電位などの生体信号に基づく福祉機器の開発と制御 ・一輪車・自転車などの不安定なパーソナルビークルの制御系設計と応用 ・ヨーヨーなどの技能的ロボットの開発と制御 ・蛇型ロボットなどの環境適応型ロボットの開発と制御 ・制御工学に基づくマルチコプター、センサ杭など防災への応用
釜 道 紀 浩 1号館 11001B (2620)	・制御工学 ・ソフトメカニクス ・スマートマテリアル	・ソフトアクチュエータ／センサの開発 ・高分子素材のスマートセンサの開発 ・ロボットの動特性を考慮した運動制御
国 吉 光 1号館 11017A (2605)	・可視化デザイン	・噴流式フリーザの吹出し気流 ・ヘアドライヤの乾燥性能に及ぼす噴出し口の影響 ・トンネル内部の冷却に用いるドライミストの特性 ・ポンプディスペンサのノズル出口における液だれの解消 ・高速噴流式ハンドドライヤの乾燥性能の向上
汐 月 哲 夫 1号館 11016A (2614)	・情報化制御システム	・ネットワーク化制御システムの解析と設計 ・遠隔操作システムへの制御工学の応用 ・組込みシステムと実時間制御系設計 ・PID 制御系に関する研究 ・線形システムの解析と制御系設計

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
鈴 木 聡 1号館 11013B (2616)	・システム制御 ・人間工学 ・ロボット工学	・熟達を考慮した人間システムモデリングと支援 ・子ども見守りシステムの研究 ・サービス科学と人間モニタリング ・脳・視線計測による興味・熟達・意図推定 ・ドライビングシミュレータによる運転支援の研究 ・天井走行サービスロボットの開発
中 村 明 生 1号館 11013A (2609)	・ロボット工学 ・コンピュータビジョン	・ヒューマンインタフェース（ジェスチャ認識インタフェース、カメラ・プロジェクタによる情報投影提示型インタフェース、視覚障害者支援システム） ・人・環境認識（顔・服特徴認識／移動ロボット） ・物体認識（視覚情報とロボット動作を組み合わせた一般物体認識）
畠 山 省 四 朗 1号館 11016B (2607)	・情報駆動システム知能化	・身体知システム工学 ・HAM (Human Adaptive Mechatronics) ・システム同定 ・制御システム工学 ・非線形制御
花 崎 泉 1号館 11015B (2617)	・信号処理とモデリング	・多変量信号処理による動作解析 ・人間動作における「コツ」のモデリング ・時系列モデルによる音声解析と応用 ・発話動作と音声に関する研究
桧 垣 博 章 ☆ 1号館 11014A (2611)	・情報工学 ・コンピュータネットワーク	・アドホックネットワークのためのルーティング／データ配送プロトコル ・センサネットワーク／メッシュネットワーク構成手法 ・VANET（自動車を含む高速移動体からなる無線マルチホップネットワーク）基盤技術 ・高信頼ネットワークアプリケーション実行手法 ・WDM光ネットワークプロトコル ・分散オペレーティングシステム構成手法 ・分散アルゴリズム

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
横 山 智 紀 1 号館 11015A (2606)	・ パワーエレクトロニクス ・ メカトロニクス	・ FPGA を用いた電力変換器の高速ディジタル制御 ・ マイクロマウスロボットの開発 ・ DRP / FPGA による次世代コントローラ開発 ・ グリーンエネルギーシステム ・ 系統連系システムの開発 ・ 非接触給電システムの開発

☆：専攻主任

※客員教授：篠 田 義 明

新人生へ

学
修
案
内

F
M
A

F
M
I

F
M
R

履
修
案
内

U
N
I
P
A

生
活
案
内

施
設

学
則
・
規
程

沿
革

校
歌
・
学
生
歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第3章 履修案内

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

UNIPA に関しては、P.57「学生ポータルサイト「DENDAI UNIPA」操作マニュアル」で詳しく案内していますので確認してください。

UNIPA 画面

2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認及び修正期間中に UNIPA で行ってください。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

3 履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

① 自分の所属する専攻の授業科目

② 他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めたときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて 10 単位までです。

③ 豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を 3 専攻共通の「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」「IT とビジネスモデル A」「IT とビジネスモデル B」
- 情報メディア学専攻…「安全建築都市システム論」「IT とビジネスモデル A」「IT とビジネスモデル B」
- ロボット・メカトロニクス学専攻…「安全建築都市システム論」「デジタル放送論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」

なお、ロボット・メカトロニクス学専攻においては「豊かな教養科目」より 2 単位以上修得することが修了要件の 1 つとなっていますので、注意してください。

④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。他専攻の授業科目と合わせて 10 単位を上限として、修了要件に算入できます。研究指導

教員と相談のうえ、工学部・未来科学部事務部で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第 16 条～第 18 条を参照してください。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系 4 大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

4 他大学院との単位互換協定に基づく 授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系 4 大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第 16 条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系 4 大学
東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

5 昼夜開講制の実施

未来科学研究科では「昼夜開講制」を実施しています。具体的には、授業科目によっては昼間 5 時制限の時間帯に加え夜間 6 時限（18：10～19：40）7 時限（19：50～21：20）の時間帯を設けています。

6 授 業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目及び単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前 期 4月1日～9月上旬まで

後 期 9月上旬～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

③ 授業時間

時 限	時 間
1 時 限	9 : 00 ～ 10 : 30
2 時 限	10 : 40 ～ 12 : 10
3 時 限	13 : 10 ～ 14 : 40
4 時 限	14 : 50 ～ 16 : 20
5 時 限	16 : 30 ～ 18 : 00
6 時 限	18 : 10 ～ 19 : 40
7 時 限	19 : 50 ～ 21 : 20

④ 休講・補講・集中講義

(1) 休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、掲示等で知らせます。

(2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等により連絡します。

(3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおり
の対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。
この授業措置については、大学発表の大学ホームページ及びポータルサイトにて周知しま
す。また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので
注意してください。

(1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏ＪＲ各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる
私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のと
おりです。

- 1) 午前６時において運休の場合は、第１・２時限目の授業は休講となります。
 - 2) 午前９時において運休の場合は、第３・４・５時限目の授業は休講となります。
 - 3) 午後３時において運休の場合は、第６・７時限目の授業は休講となります。
- ※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

(2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前６時において暴風警報が発令されている場合は、第１・２時限目の授業は休講
となります。
- 2) 午前９時において暴風警報が発令されている場合は、第３・４・５時限目の授業は
休講となります。
- 3) 午後３時において暴風警報が発令されている場合は、第６・７時限目の授業は休講
となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化する
ことがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を
必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及び
ポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

(3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があ ります。その場合には、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、 各自確認してください。

7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するとともに、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

8 学力考査及び成績評価

① 学力考査

学力考査は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって学力考査に代えることがあります。

なお、学力考査は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

成績は S・A・B・C 及び D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90 ~ 100	S	4
	80 ~ 89	A	3
	70 ~ 79	B	2
	60 ~ 69	C	1
不合格	0 ~ 59	D	0
	放棄	—	0

※自由科目は、GPA 計算には含まれません。

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※ 成績証明書には D・— は表記されません。

※ $GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPA は小数点第 4 位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は 3 月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前 9 月に行います。成績通知の方法、期間は UNIPA にて知らせます。

9 研究指導実施体制

① 指導体制

- (1) 指導教員は、学生の希望に基づき専攻が決定します。
- (2) 指導教員は、前期終了までに副指導教員 1 名を決定し、効果的な支援のための複数指導体制を整えます。場合によっては、指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。
- (3) 指導教員は、副指導教員とともに学生と面談を行い、研究課題の設定を指導・助言します。
- (4) 指導教員は、履修科目の選択をはじめ、専門プログラム・専門研究科目など全般について、指導・助言を行います。
- (5) 指導教員は、修了に向けて定期的に副指導教員とともに学生と面談を行い、研究活動の進捗状況を確認し、必要に応じて研究課題、研究方法、研究スケジュール等の見直し・修正を学生に指導・助言します。
- (6) 指導教員並びに副指導教員は、いずれも所属する専攻の研究指導教員（MO合）の資格を有する者とします。

② 研究活動

- (1) 指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じ国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (2) 指導教員は、本研究科が定める『修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準』に基づき、複数の審査員によって、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査を行います。

10 修了要件

① 修了単位

- 課程を修了するためには、修士課程に 2 年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。
また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。
在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1 年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

- | | |
|---|---|
| (1) 高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目
建築技術・知識演習Ⅱ（必修） | 2単位 |
| (2) 高度専門プログラム（研究コース）
上記（1）の共通科目に加えて、
建築学特別研究Ⅰ（必修）
建築学特別研究Ⅱ（必修）
その他の専門科目 | 4単位
4単位
20単位以上 |
| （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得
（選択必修）することを含む） | |
| (3) 職能教育プログラム（スタジオコース）
上記（1）の共通科目に加えて、
建築学特別設計Ⅰ（必修）
建築学特別設計Ⅱ（必修）
建築学実習Ⅰ（必修）
建築学実習Ⅱ（必修）
建築学実習Ⅲ（必修）
その他の専門科目 | 2単位
2単位
2単位
2単位
2単位
18単位以上 |
| （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得
（選択必修）することを含む） | |

【情報メディア学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、研究指導教員との相談により決める。

- | | |
|---|--|
| (1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目
情報メディア学特別演習ⅠA（必修）
情報メディア学特別演習ⅠB（必修）
情報メディア学特別演習ⅡA（必修）
情報メディア学特別演習ⅡB（必修）
情報メディア学特別研究ⅠA（必修）
情報メディア学特別研究ⅠB（必修） | 2単位
2単位
2単位
2単位
2単位
2単位 |
| (2) 高度専門プログラム
上記（1）の共通科目に加えて、
情報メディア学特別研究ⅡA（必修）
情報メディア学特別研究ⅡB（必修）
その他の専門科目 | 2単位
2単位
14単位以上 |
| (3) 職能教育プログラム
上記（1）の共通科目に加えて、
情報メディア学特別制作A（必修）
情報メディア学特別制作B（必修）
その他の専門科目 | 2単位
2単位
14単位以上 |

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ（必修）	4 単位
(2) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ（必修）	4 単位
(3) 特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB（必修）各 1 単位	
(4) 専門科目 （情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門）	8 単位以上
(5) 専攻共通科目	2 単位以上
(6) 「豊かな教養」科目	2 単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試験が行われます。

- (1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行及び論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
- (5) 問題点の的確な整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身についているか。
- (6) 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1 年間もしくは 1.5 年間の在学期間での修了を認めます。以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。希望する場合は、半年前までに研究指導教員に相談してください。

- (1) 1 年間終了時、もしくは 1.5 年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の 1 年間もしくは 1.5 年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。
また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任及び研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

④ 前期末修了（修了条件を満たさず修了延期になった者対象）

(1) 前期末修了の条件

2年次に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に前期末修了判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。修了所要単位数など所定の修了条件を満たした時は、前期末修了（9月10日付）となります。

（所定の修了条件）

修了条件は入学した年度に学生に提示している修了条件を適用する。

(2) 前期末修了のための専門研究部門科目及びそれに類する科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ専攻主任・担当教員が許可する場合は、必要となる専門研究部門科目及びそれに類する科目の履修が可能です。

ただし、専門研究部門科目及びそれに類する科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講期で履修することとし、本取扱いの対象外となります。

専門研究部門科目に類する科目は以下の科目です。

・ 建築学専攻：「建築技術知識演習Ⅱ」

※職能教育プログラム履修者は、上記以外に「建築学実習Ⅰ」「建築学実習Ⅱ」「建築学実習Ⅲ」

履修登録については工学部・未来科科学部事務局へ問い合わせてください。

11 学 位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類及びそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建 築 学 専 攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

12 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出及び審査手順については「東京電機大学学位規程」(後掲)及びそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従ってください。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次にUNIPA等で確認してください。

① 修士論文

論文作成上の注意事項

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。

論文予稿の提出(参考:平成28年度の場合 平成29年1月18日(水)～20日(金)まで)

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入してください。)
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生にUNIPAで案内をします。
※予稿は、専攻毎に製本して修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

論文の提出(審査用)(参考:平成28年度の場合 平成29年1月30日(月)まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照してください。

論文の提出(大学保存用)(参考:平成28年度の場合 平成29年2月28日(火)まで)

最終版1部をPDFファイル化し、元データ(word等)とともに提出してください。
詳細は修了年次生にUNIPAで案内します。
※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による論文審査(通常口頭又は文書)が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果発表会(参考:平成28年度の場合 平成29年2月10日(金)予定)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始してください。
発表方法等は、1月初旬にUNIPAにて修了年次生へ詳細を連絡します。

② 修士論文に代わる研究成果

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従ってください。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿はA 4判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とします。「研究成果報告書表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。

研究成果報告書予稿の提出(参考:平成 28 年度の場合 平成 29 年 1 月 18 日(水)～20 日(金)まで)

- ① 原稿はA 4判4 枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入してください。)
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生へ UNIPA で案内します。
※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

研究成果報告書の提出(審査用)(参考:平成 28 年度の場合 平成 29 年 1 月 30 日(月)まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1 部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照してください。

研究成果報告書の提出(大学保存用)(参考:平成 28 年度の場合 平成 29 年 2 月 28 日(火)まで)

最終版1 部を PDF ファイル化し、元データ(word 等)とともに提出してください。

詳細は修了年次生に UNIPA で案内します。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による審査(通常、口頭または文書)が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果発表会(参考:平成 28 年度の場合 平成 29 年 2 月 10 日(金)予定)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1 月より準備を開始してください。

発表方法等は、UNIPA にて1 月初旬に発表者へ連絡します。

【修士論文予稿見本】

【研究成果報告書予稿見本】

論文題目

(英 文 名)

学籍番号

研究指導教員

氏名

教授

氏名

本文

【修士論文表紙見本】

【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※

論文題目

(英 文 名)

東京電機大学大学院未来科学研究科

修士課程〇〇〇専攻

学籍番号

氏名

研究指導教員

教授

〇〇

〇〇

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」としてください。

13 教育職員免許状

① 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類及び教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

② 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。
- (2)すでに、同一教科の「高等学校教諭1種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいるが取得に必要な単位を取得済みであること。
高等学校教諭1種免許状については、学部の教職課程要覧を参照してください。
※1種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

③ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が24単位以上必要です。

どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

- (1)「工業」の専修免許取得に必要な単位
建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。
- (2)「情報」の専修免許取得に必要な単位
情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

④ 免許状申請手続

- (1)一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、UNIPA で配信される掲示の指示に従ってください。

(2) 個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行ってください。

⑤ **学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者**

学段落階で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず工学部・未来科学部事務部窓口にて個別に相談してください。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。手続き等の詳細については、UNIPA で配信される掲示の指示に従ってください。

14 一級建築士受験資格要件（実務経験）

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要がある、コース（分野）を横断したインターンシップは、一級建築士の受験資格としては認定されないので注意する必要があります。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）	
実務要件 2年	① 14 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 30 単位以上修得。 在学 2 年以上。
実務要件 1年	① 4 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 15 単位以上修得。 在学 1 年以上。

実務要件に関連する科目		※（ ）内は単位数
①の科目 何単位でも実務要件単位に認定可能	<学外インターンシップ> インターンシップⅤ（2）、インターンシップⅥ（2）、インターンシップⅦ（4）、 インターンシップⅧ（4）、インターンシップⅨ（4）、インターンシップⅩ（4） <学内インターンシップ> 建築学実習Ⅰ（2）、建築学実習Ⅱ（2）、建築学実習Ⅲ（2）、建築学実習Ⅳ（2） ※スタジオコース履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」が必修。また「建築学実習Ⅳ」は履修できません ※研究コース履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修できます	
②の科目 実務要件 単位数は 最大 8 単 位が上限	建築技術・知識演習Ⅰ（2）、建築技術・知識演習Ⅲ（2） ※「建築技術・知識演習ⅠとⅢ」は選択科目 建築技術・知識演習Ⅱ（2） ※「建築技術・知識演習Ⅱ」はプログラムを問わず必修科目。在学中に二級建築士を取得した場合は単位を認定します	
③の科目 実務要件 単位数は 最大 8 単 位が上限	設計・計画・意匠 コース（8 科目）	都市デザイン論（2）、建築形態論（2）、建築空間デザイン論（2）、 近代建築論（2）、地域施設計画論（2）、環境情報デザイン論（2）、 建築環境心理生理（2）、建築生産論（2）
	構造コース （10 科目）	安全建築都市システム論（2）、空間構造創成論（2）、 建築構造設計論（2）、構造デザイン認識論（2）、建築鋼構造論（2）、 建築生産論（2）、建築ハイブリット構造論（2）、 コンピューターデザイン論（2）、コンピューターによる骨組解析論（2）、 建築防災工学論（2）
	設備コース （6 科目）	建築空間デザイン論（2）、環境情報デザイン論（2）、 建築環境形成技術論（2）、建築環境形成論（2）、 建築環境心理生理（2）、安全建築都市システム論（2）、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません

(1) 実務2年を目指す場合の履修例

<研究コースの例>

① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + 建築学実習Ⅳ(2) + インターンシップⅦ(4) + X(4) = **16単位**

② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = **6単位**

③ インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = **8単位**
- ・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 環境情報デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) = **8単位**

① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

<スタジオコースの例>

① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + インターンシップⅤ(2) + Ⅶ(4) + Ⅷ(4) = **16単位**

② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = **6単位**

③ インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = **8単位**

* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

(2) 実務1年を目指す場合の履修例

<研究コースの例>

① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + インターンシップⅤ(2) = **4単位**

② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = **4単位**

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = 8単位
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = 8単位
- ・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 環境情報デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) = 8単位

① 4単位 + ② 4単位 + ③ 8単位 = 16単位 (> 15単位)

<スタジオコースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) = 6単位

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = 4単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) = 6単位
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 構造デザイン認識論(2) + 建築構造設計論(2) = 6単位

* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 6単位 + ② 4単位 + ③ 6単位 = 16単位 (> 15単位)

15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照してください。

16 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3週間程度の語学研修から1年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

(1) 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

1) コロラド大学ボールダー校（米国）：8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

（いずれも主に学部生を対象としていますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせをしてください）

1) 韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

2) 中国語研修：中原大学（台湾）にて、3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

3) インドネシア研修：ヌサンタラマルチメディア大学（インドネシア）にて、3月に実施（約2週間）、募集は10月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。

留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意してください。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意

してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) などの受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から 1 年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科及び工学部・未来科学部事務部の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス 2 号館 3 階 9 時～ 17 時）

「国際センター」では TDU の特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（東京千住キャンパス 1 号館 4 階 10 時～ 17 時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

17 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
国立研究開発法人 理化学研究所
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
一般財団法人 電力中央研究所
公益財団法人 国際超電導産業技術研究センター
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
国立研究開発法人 海上技術安全研究所
国立研究開発法人 情報通信研究機構
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所
独立行政法人 労働安全衛生総合研究所

18 履修証明プログラム

本学では、文部科学省の平成 26 年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」の設立を申請し、採択されました。本コースは、産業界を先導するサイバーセキュリティの専門家の養成を目的とした履修証明プログラムであり、社会人等学外から受講者を募集し、当該コース修了者に、履修証明書を交付することとしています。

平成 27 年度より、履修証明プログラムとして、本コースの以下の 6 科目を、未来科学研究科情報メディア学専攻に設置しています。

これらの科目は、在学生も履修することが可能で他専攻履修・他研究科履修にも対応しています。

なお、詳細は、工学部・未来科学部事務部窓口で問い合わせてください。

対象科目

- 「サイバーセキュリティ基盤」
- 「サイバーディフェンス実践演習」（自由科目）
- 「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」
- 「デジタル・フォレンジック」
- 「情報セキュリティマネジメントとガバナンス」（自由科目）
- 「セキュアシステム設計・開発」（自由科目）

学生ポータルサイト 「DENDAI – UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のアップ・ダウンロード」「成績確認」等）

2016 年 4 月版

新入生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」

目次

■	学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」	
1.	学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」について	59
2.	「DENDAI－UNIPA」閲覧環境について	59
■	「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン	
1.	「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン方法	61
2.	「DENDAI－UNIPA」の画面構成	63
3.	注意事項	64
■	掲示情報の確認	
1.	掲示について	66
■	シラバスの閲覧	
1.	オンラインシラバスについて	67
2.	シラバスの閲覧方法	68
3.	他画面からのシラバス参照	70
■	Webによる履修登録方法	
0.	全体の流れ	71
1.	「DENDAI－UNIPA」へのログイン	72
2.	履修希望科目の選択	73
3.	エラーチェック	75
4.	履修登録の確定	77
5.	卒業見込判定	78
6.	履修登録科目の確認方法	79
7.	履修登録に関するFAQ	80
■	クラスプロフィール	
1.	クラスプロフィールについて	81
2.	授業資料のダウンロード方法	82
3.	授業課題の提出方法	83
■	出席確認	
1.	出席情報の確認について	85
2.	出席確認に関するFAQ	86
■	成績確認	
1.	成績の確認について	87
■	その他の主な機能	
1.	個人別情報について	88
2.	メール設定について	89
3.	時間割について	90

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送るためには必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI－UNIPA」上で行いますので、1日に複数回、確認するよう心がけてください。

なお、学生の時間割確認・成績照会・出席情報については、保証人も閲覧できるように、入学時の前期の成績通知までにIDを発行しています。

2. 「DENDAI－UNIPA」の閲覧環境について

「DENDAI－UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンであれば、学内外を問わず自由に閲覧することができます。

※本文中に記載の「画面デザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更になる場合があります。

(1) PCからの利用

【URL】 <https://portal.sa.dendai.ac.jp>

【動作環境】

Internet Explorer 7/8/9/10、Mozilla Firefox、Safari 5.1、Chrome のブラウザで動作確認をしています。

※ Mozilla Firefox、Chrome は最新版の利用を推奨します。

(2) スマートフォンからの利用

休補講のお知らせや成績照会、履修登録といった「DENDAI-UNIPA」の主要機能をスマートフォンからも利用できます。ただし、「個人情報」等の一部機能は利用出来ませんので、画面に表示されない機能はPC用サイトを利用してください。

【URL】 <https://portal.sa.dendai.ac.jp/up/up/co/smartphone/login.jsp>

【動作環境】

iOS 5.0～8.1、Android 2.3～4.4

※ iOS は safari、Android は標準ブラウザにて動作確認をしています。

※ Android 環境でのファイルダウンロードの可否は端末により異なります。

（一部の端末では、添付ファイルのダウンロードが出来ない場合があります）

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

【注意事項】

- スマートフォンから利用する場合、以下の操作は行わないでください。
- PC を含む複数端末からの同時ログイン
 - ブラウザの戻るボタンの使用
 - PC からのスマートフォンサイトの操作
 - スマートフォンからの PC 用サイトの操作

「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン

1. 「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン方法

- 1 学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>

- 2 ログイン画面が開きます。

- 3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、

ログイン

をクリックします。(図 1)



- ※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID (学籍番号) およびパスワードが必要です (例: 16ej999 ※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください)。
- ※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせします。

ログイン

User ID

PassWord

ログイン

ゲストユーザー

ログインにはユーザID(学籍番号)と共通パスワードが必要です。
 (学籍番号の英文字は小文字で入力してください。)
 (※教職員は専用のパスワードを入力してください。)

※Internet Explorer10、Firefox22以上で動作確認を行っています。
 ※携帯電話には対応していません。

毎日、下記時間にシステムメンテナンスを行いますので、
 この間は、システムをご利用いただけません。

停止時間：深夜3時00分～5時30分

【ポップアップブロックについて】
 ポータルサイト内では、ポップアップを多用しています。
 ポップアップブロック機能が有効な場合、ページが開かない場合がございますので、
 以下の方法で解除を行ってください。

Internet Explorerの場合
 Firefoxの場合
 Google Chromeの場合
 Googleツールバーを利用している場合

図 1 ログイン画面

4 入力に誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。(図2)

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は総合メディアセンターまたは工学部・未来科学部事務部に申し出てください。



図2 ログインエラー表示

2. 「DENDAI－UNIPA」の画面構成

① メニュー

各種機能のメニューです。項目は変更する場合があります。

② トップページ切り替えタブ

トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロフィール 授業ごとに様々な機能を使用することができます。

マイステップ 自分自身の学習記録を記録することができます（教職カルテなど）。

③ お知らせ

各種掲示情報や学生呼出、授業の休講・補講・教室変更、ガイダンス情報、履修に関する連絡等、大切な情報が表示されます。

④ スケジュール・授業情報

大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。

また、**スケジュール** ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り

大学側があらかじめ設定したリンクのほか、**編集** ボタンから自分のお気に入りのWebサイトの登録ができます。



図3 トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログインしてから 30 分間操作がない場合、自動的に接続が切断され、再度ログインが必要になります。履修登録の際は特に注意してください。



図 4 セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日深夜 3:00 から 5:30 に、システムメンテナンスを行います。
この時間帯は「DENDAI - UNIPA」を使用することはできません。
その他、臨時メンテナンスを行う場合があります。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI - UNIPA」の画面内の **戻る** ボタンを使用してください。

画面内に **戻る** ボタンがない場合は、画面上部の **ホーム** ボタンや、各種メニュータブから元の機能に戻ってください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

(4) ポップアップブロック

「DENDAI－UNIPA」では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性があります。

そのような場合、ポップアップブロック機能を解除する必要があります。ブラウザによって設定方法が異なりますので、ログイン画面下部の「ポップアップブロックについて」を参照してください。


東京電機大学
学生ポータルサイト

ログイン

User ID

PassWord

 ゲストユーザー

ログインにはユーザID(学籍番号)と共通パスワードが必要です。
(学籍番号の英文字は小文字で入力してください。)

※Internet Explorer7以上、Firefox3.6以上で動作確認を行っております。
※携帯電話には対応していません。

毎日、下記時間にシステムメンテナンスを行いますので、
この間は、システムをご利用いただけません。

停止時間: 深夜3時00分～5時30分

【ポップアップブロックについて】

ポータルサイト内では、ポップアップを多用しています。
ポップアップブロック機能が有効な場合、ページが開かない場合がございますので、
以下の方法で解除を行ってください。

[Internet Explorerの場合](#)

[Firefoxの場合](#)

[Googleツールバーを利用している場合](#)

揭示情報の確認

1. 掲示について

1. 掲示について

東京千住キャンパスでは、皆さんへの連絡を「DENDAI－UNIPA」上で掲示します。掲示には、学生個人宛のもの、該当する学年・専攻宛のもの、対象科目を限定したものなどの種類がありますが、全て関係のあるものが配信されますので、一日に複数回「DENDAI－UNIPA」を確認してください。

TDU		学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA				
個人別情報		時間割		授業	成績開示速	ホーム メール設定 サイトマップ ログアウト

ポータル	クラスプロファイル	マイステップ
------	-----------	--------

◀ 2014年12月 ▶

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本日 スケジュール

教員からのお知らせ

教員からのお知らせです。必ず確認してください。

お知らせはありません。

全0件

授業情報

12月16日(火)
該当する授業はありません

12月17日(水)
該当する授業はありません

休講・補講・教室変更

休講・補講・教室変更に関するお知らせです。

お知らせはありません。

全0件

お気に入りタイトル

求人検索NAVI(学生用)
キャリア・就職支援(講座・イベント)

授業に関するお知らせ

授業や履修に関するお知らせです。

- [✓] 【千住・出席】出席情報の反映について 工学部・未来科学部事務部 [2014/10/17]
- [✓] 【千住・授業】10月6日(月)休講分の振替授業について 工学部・未来科学部事務部 [2014/10/06]

全2件

学生生活全般に関するお知らせ

揭示情報画面



- ※ 各種手続き等の方法や期間などが掲示されますので、毎日必ず確認してください。
- ※ 大学からメールや電話で連絡が届く場合もありますが、原則的には「DENDAI－UNIPA」での掲示にて各種連絡を行います。

シラバスの閲覧

1. オンラインシラバスについて

1. オンラインシラバスについて

授業担当教員が作成する講義要目（シラバス）は、オンライン（web）のみから閲覧することができます。

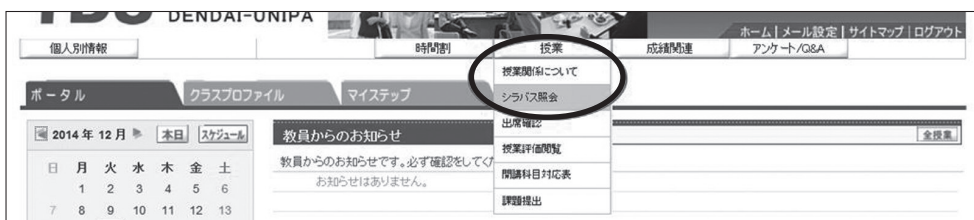
シラバスには、科目名、単位数、担当教員名、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）、クラス分け情報、ガイダンス情報等が掲載されています。授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するためによく確認してください。授業の進度に応じて、シラバス内容を更新する場合もあるので、常時確認してください。

2. シラバスの閲覧方法

- 1 学生ポータルサイト「DENDAI - UNIPA」へアクセス、ログインします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>

- 2 画面上部のメニューから **授業** ⇒ **シラバス照会** をクリックしてください。



- 3 シラバス検索画面が開き、科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部または全部を入力し、**検索** をクリックしてください。

シラバス検索

管理部署	全て対象
開講	年度
科目名称	(部分一致:カナ、英語含む)
教員氏名	(部分一致:カナ、英語含む)
学科組織	全て対象
開講キャンパス	全て対象
曜日時限	全て対象 全て対象 ☐ 集中講義など
キーワード	(部分一致)

クリア

検索



- ※ シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
学部や他研究科・他専攻などのシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。
- ※ うまく検索結果が表示されない場合、【教員氏名】などの語句を全角カタカナで入力することを推奨します（漢字の表記の違いによる検索漏れを回避できます）。

新入生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

5 選択した科目のシラバスが表示されます。



— 69 —

3. 他画面からのシラバス参照

オンラインシラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロフィール」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記各メニューの画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」上で行うことになります。履修登録は以下のような手順で行います。

1 「DENDAI－UNIPA」へのログイン

2 履修希望科目の選択

3 エラーチェック

4 履修登録の確定

5 卒業見込判定

6 履修登録科目の確認方法

7 履修登録に関する FAQ

1. 「DENDAI – UNIPA」 へのログイン

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>



※ 「DENDAI – UNIPA」 は、ログイン後 30 分間操作がないとタイムアウトになり、再度ログインが必要になります。

確定前の履修登録情報が消えてしまう可能性がありますので、あらかじめ紙に履修計画を書くなどしてから履修登録を行ってください。

2. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから **履修登録** をクリックします。(図 1)



図 1 メニュー

2 授業時限の選択

編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。(図 2)

※集中講義は画面左下の **集中講義** にある選択ボタンから履修できます。

■ 履修登録

1 授業の選択 ▶ 2 エラー確認 ▶ 3 最終確認 ▶ 4 完了

▶ 履修する授業を選択してください。◀

無登録状況の確認

時間割表示 一覧表示

履修合計単位 0.0

チェック

2012年度 後期 後期単位 0.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択	選択	選択	選択	選択	
2		選択	選択	選択	選択	選択
3	選択	選択	選択	選択	選択	選択
4	選択	選択	選択	選択	選択	選択
5	選択	選択	選択	選択	選択	

選択 をクリック

図 2 履修登録画面

3 履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に開講科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて **確定** をクリックします。(図 3)



- ※ 同じ科目名が複数ある場合は、ガイダンスの指示やシラバスのクラス分け情報、掲示などで教員氏名をよく確認してから選択してください。
- ※ 「授業の追加」画面では、科目名をクリックすることでシラバスを確認できます。

授業の追加

閉じる

2012年度 後期 月1

	授業コード	科目名	単位
☐	102282003	化学Ⅱ【藤本 明】	2.0
☐	102332001	化学実験Ⅱ【篠崎 開】 撤回	1.0
☐	106142001	物理実験Ⅱ【長澤 光晴】 撤回	1.0
☐	1G0072004	トリムスポーツⅡ【古賀 初】 撤回	2.0

確定

図 3 授業の追加画面

4 選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。(図 4)

科目を取り消す場合は **削除** をクリックします。

1 授業の選択

2 エラー確認

3 最終確認

4 完了

履修する授業を選択してください。

振替状況の確認

時間割表示 一覧表示

履修合計単位 2.0

チェック

2012年度 後期 後期単位 2.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択 削除 1102282003 化学Ⅱ【藤本 明】 2603	選択	選択	選択	選択	
2	選択	選択	選択	選択	選択	選択
3	選択	選択	選択	選択	選択	選択
4	選択	選択	選択	選択	選択	選択
5	選択	選択	選択	選択	選択	

図 4 履修した科目の確認

3. エラーチェック

- 1 履修希望科目を全て選択したら、**チェック** ボタンをクリックします。

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日
時限コマがピンク色に表示されます。(図 5)

- 2 エラーメッセージが出た場合は、画面上部の[登録内容にエラーがあります]のメッ
セージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正してく
ださい。(図 6)

- 3 エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。

※エラー内容について不明な点がある場合は、速やかに工学部・未来科学部事務部に
申し出てください。

- 4 エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

履修登録

1 授業の選択 2 エラー確認 3 最終確認 4 完了

登録内容にエラーがあります。こちらより内容を確認できます。

振替状況の確認

時間割表示 一覧表示

履修合計単位 8.0

2012年度 後期 後期単位 8.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択 削除 1102282003 化学II【橋本 明】2603	選択 削除 1102282006 化学II【保倉 明子】2905 選択 削除 1106142003 物理実験II【森田 善吾】2803 選択 削除 11L0062004 総合英語IV【吉成 雄一郎】2404	選択 削除 1104402001 情報理論【小山 祐徳】21003	選択 削除 1104822016 線形代数学II【藤澤 太郎】2505	選択 削除 11G0162001 大学と社会【大工 正比古】2505	
2	選択 削除 11G0272001 企業と経営【世良 耕一】21005	選択 削除 1106142003 物理実験II【森田 善吾】2803	選択 削除 1106112005 物理学II(標準)【丹羽 雅昭】2901	選択 削除 1101292002 フーリエ解析【三嶋 聡司】2504	選択 削除 1106392002 量子物理学【平栗 健二】2503	選択
3	選択 削除 1105972002 微分積分学および演習II【中島 幸】2603	選択	選択	選択	選択	選択

図 5 チェック後の画面（エラーあり）



- ※ エラーが出ている場合は、登録が未完了です。必ずエラーは修正してください。
- ※ エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合には放置せず、履修登録期間内に工学部・未来科学部事務部まで申し出てください。

主なエラーメッセージの例

- 【同名科目（または同一科目）を複数履修している場合】
 - ⇒「既修得。」
 - ⇒「科目重複。同じ科目がすでに登録されています。」
 - ⇒「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」
 - ⇒「同じ振替科目を複数履修することは出来ません。」
- 【同じ曜日時に履修することが出来ない複数の科目を選択している場合】
 - ⇒「時間割重複。」
- 【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】
 - ⇒「履修できる単位数は〇〇単位までとなります。」

エラー内容の確認

閉じる

基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
1102512002	2012年度 後期	金 4	回路理論Ⅱ【西方 正司】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512004	2012年度 後期	火 4	回路理論Ⅱ【飯田 祥二】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512003	2012年度 後期	金 4	回路理論Ⅱ【大内 幹夫】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1104822016	2012年度 後期	木 1	線形代数学Ⅱ【藤澤 太郎】	2.0	既修得。
1106112012	2012年度 後期	金 3	物理学Ⅱ(標準)【桃沢 信幸】	2.0	既修得。
1105972002	2012年度 後期	月3 木 4	微分積分学および演習Ⅱ	4.0	既修得。

制限エラー

制限エラーはありません。

図 6 「エラー内容の確認」画面

4. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ「チェック」ボタンが「確定」ボタンに変わり、画面上部には「エラーはありません。」のメッセージが表示されます。（図 7）

履修登録画面に表示されている科目・担当教員氏名に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は「授業の選択へ戻る」ボタンを、修正が必要ない場合は「確定」ボタンをクリックします。

履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。

履修登録

授業の選択へ戻る

1 授業の選択 2 エラー確認 3 最終確認 4 完了

エラーはありません。

振替状況の確認

確定

時間割表示 一覧表示

履修合計単位 24.0

2012年度 後期 後期単位 24.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1		11L0062004 総合英語Ⅳ 【吉成 雄一郎】 2404	1104402001 情報理論 【小山 裕徳】 21003		11G0162001 大学と社会 【大江 正比古】 2505	
2				1101292002 フーリエ解 析【三鍋 聡司】 2504	1106392002 量子物理学 【平栗 健二】 2503	
		1105582005 電磁気学Ⅱ				

図 7 チェック後の画面（エラーなし）



※ 「確定」をクリックする前に、登録漏れがないかを確認してください。

5. 卒業見込判定

2 年次生は「卒業見込判定」を行うことができます。

- 画面上部のメニューから **成績関連** ⇒ **卒業見込判定** を選択してください。
(図 8)

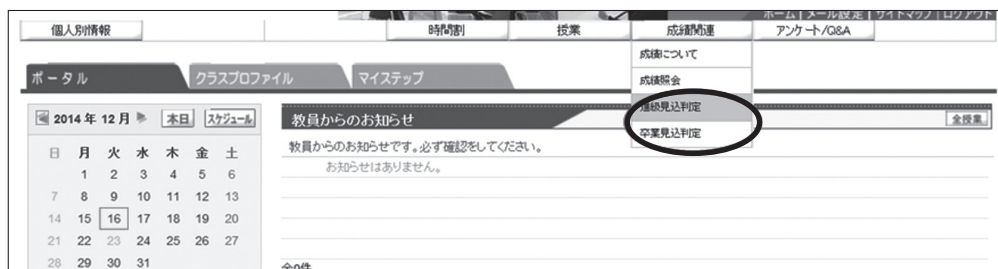


図 8 卒業見込判定選択

- 判定結果が表示されます。(図 9)

単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。

■ 卒業見込判定			
卒業見込条件を満たしていません。			
コード	要素No	要件不足詳細	不足数
1038	1	修了1科目は、30単位以上修得済であること(修了所要単位に算入できる任意選択科目は10単位)。	6.0単位
1042	1	修了1科目は、プログラム必修科目を修得していること。	1科目

図 9 卒業見込判定結果



- ※ 卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに見込判定画面を確認することをお勧めします。
- ※ 判定は、履修登録した科目を全て修得した場合に、各判定の要件を満たすか否かを表示する機能です。

6. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、[履修登録が完了しました。] のメッセージと **時間割の印刷** ボタンが出現します。(図 10)

履修内容の確認のために、必ず「時間割表の印刷」ボタンでプリントアウトを行い、各自保管してください。

履修登録

授業の選択 ▶ エラー確認 ▶ 最終確認 ▶ 完了

履修登録が完了しました。

授業の選択へ戻る

時間割表の印刷

時間割表示 一覧表示 履修合計単位 24.0

2012年度 後期 後期単位 24.0

月曜日	火曜日	水曜日	金曜日	土曜日
1	11L0062004 総合英語IV 【吉成 雄一郎】 2404	110440200 【小山 裕徳】	11G0162001 大学と社会 【大江 正比古】 2505	
		1101292002 フリー工解	1106392002 量子物理学	

図 10 履修完了画面



- ※ 履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名、クラス等に誤りがないかを確認してください。履修登録していない科目は採点の対象とならないため、単位を修得することはできません。

7. 履修登録に関する FAQ

Q 携帯電話等から履修登録できますか？

A スマートフォンから履修登録が可能です。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp/up/up/co/smartphone/login.j.sp>

詳細は P59 の「(2) スマートフォンからの利用」を確認してください。

Q 履修登録できない科目がある。

A すでに修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

Q 何度修正してもエラーメッセージが消えない。

A そのまま放置せずに、速やかに工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

Q 深夜 3 時～5 時 30 分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？

A システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。

Q 必修科目も履修登録するのか？

A 大学で履修登録を行う次の科目以外は、各自で履修登録を行ってください。

【建築学専攻】 建築技術・知識演習Ⅱ

【情報メディア学専攻】 情報メディア学特別演習ⅠA、情報メディア学特別演習ⅠB

情報メディア学特別演習ⅡA、情報メディア学特別演習ⅡB

情報メディア学特別研究ⅠA、情報メディア学特別研究ⅠB

Q 再履修はどのように履修登録するのか？

A 大学で履修登録を行う科目以外は、自分自身で履修登録を行ってください。また授業内・シラバス・掲示などで指示がある場合はそれに従ってください。

Q 履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？

A 履修登録画面で「チェック」または「確定」をクリックしていない可能性があります。「チェック」または「確定」をクリックしないと、選択内容は登録されません。

Q 履修登録後に登録間違いに気がついた

A 一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です（一部科目を除く）。期間終了後は変更が不可能ですので、注意してください。

Q Web 履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？

A ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。

Q 担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。

A 工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

クラスプロファイル

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などができる機能です。

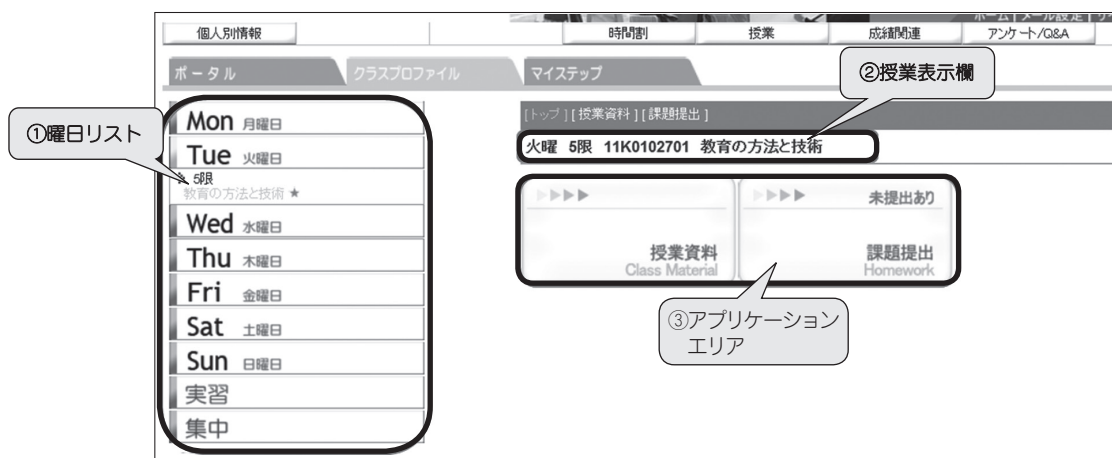
教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。

1 「DENDAI-UNIPA」にログインし、トップページから **クラスプロファイル** をクリックします。

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

[課題管理]に新着情報がある場合は授業名の右に★が表示されます。科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。



- ※ 履修登録を行っていない授業科目については、クラスプロファイル機能を使用することができませんので注意してください。
- ※ クラスプロファイルの各機能は、追加・削除を行う場合があります。
- ※ クラスプロファイルの閲覧、データのダウンロードなどは当該科目の学期最終週後に使用できなくなります。必要な資料は各自の環境に保存してください。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI－UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます（履修登録した学生のみ）。

- 1 曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから **授業資料** をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。

個人情報 抽選・資格希望 履修登録 時間割 授業 成績関連 アンケート/Q&A

ポータル クラスプロフィール マイステップ

Mon 月曜日
Tue 火曜日
▶ 1限 総合英語IV
▶ 2限 電気機器II
▶ 3限 **パワーエレクトロニクス ***
▶ 4限 回路理論II
Wed 水曜日
▶ 1限 電気電子総合演習
▶ 2限 高電圧工学
Thu 木曜日
Fri 金曜日
Sat 土曜日
Sun 日曜日

【トップ】[課題提出][授業資料][WEBノート]

火曜 3限 1101252001 パワーエレクトロニクス

課題 Homework 授業資料 Class Material WEBノート Notebook

クラスプロフィール マイステップ

【トップ】[課題提出][授業資料][WEBノート]

火曜 3限 1101252001 パワーエレクトロニクス

授業資料グループ 全て対象 並び順 授業実施日順 降順 検索

授業資料グループ	授業実施日	タイトル	コメント	資料
A先生クラス	2011/11/18(金)	2011/11/18の講義資料		
Bグループ	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		
	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		

- 2 授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の  をクリックすると資料をダウンロードできます。

【トップ】[課題提出][授業資料][WEBノート]

火曜 3限 1101252001 パワーエレクトロニクス

授業資料グループ 全て対象 並び順 授業実施日順 降順 検索

授業資料グループ	授業実施日	タイトル	コメント	資料
A先生クラス	2011/11/18(金)	2011/11/18の講義資料		
Bグループ	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		
	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		

作成者
次回授業までに下記のサイトをよく確認しておくこと。

<http://atom.dendai.ac.jp/> <http://atom.dendai.ac.jp/>

20111018講義資料7.doc 

20111018講義資料7.pdf 

課題用テスト.doc 

3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI - UNIPA」上で確認・提出することができます。

- 1 アプリケーションエリアの **課題提出** をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。

- 2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。

3 「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。添付ファイルで提出する場合は、**参照** をクリックします。

4 添付するファイルの選択をした後、必ず **追加** をクリックします。 **追加** をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。



※ 教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です（1 ファイルにつき 10MB がアップロードできる上限です）。
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。

ファイル添付前

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{}内に記述してください
提出するファイルを指定し、追加ボタンを押下してください。(最大5ファイルまで可)

添付 **参照...** **追加**

戻る **提出**

ファイル添付後

添付 **参照...** **追加**

添付ファイル	KByte	削除
A_001_11ee001_DendaiTaro.doc	20KB	削除

戻る **提出**

5 最後に右下の **提出** をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。
必ず提出できているか否か（添付資料がある場合、アップロードされているか否か）を自身で確認してください。

7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 **提出** をクリックしてください。

出席確認

1. 出席情報の確認について

学生証による出席管理が可能な教室で授業を行っている科目については、出席情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 画面上部のメニューから **授業** ⇒ **出席確認** をクリックすると、出席状況が表示されます。

The screenshot shows the DENDAI-UNIPA interface. At the top, there are tabs for '個人別情報', '時間割', '授業', '成績関連', and 'アンケート/Q&A'. Under the '授業' tab, there is a sub-menu with '授業開始について', 'シラバス照会', '出席確認' (highlighted with a red circle), '授業評価閲覧', '開講科目対応表', and '課題提出'. On the left, there is a 'ポータル' section with a calendar for December 2014 and a 'スケジュール' button.

- 出席確認画面で、反映されているデータを確認することができます。

2012年度 後期 2012/12/17 を基準に出席率を算出します。 検索

曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月4	1105292002	電気電子計測(五島 孝文)	50%	○	○	○	○	○		○							/	/
火3火4	1105332001	電気電子工学基礎実験II(原 和裕)	0%															
水1	1104402001	情報理論(小山 裕彦)	67%	○	○		○	○	○	○	○					休		
水2	1105442001	電子回路I(植野 彰規)	85%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
水3	11G0392003	中国語II(費 燕)	77%		○	○	○	○	○	○	○	○						
木2	1101292002	フーリエ解析(三鍋 聡司)	77%	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○		
木3	1106422002	論理システム設計(五島 孝文)	79%	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		
金2	1106392002	量子物理学(平栗 健二)	82%	休	○	○	○	○	○	○	○	○	○					/
金3	1105582001	電磁気学II(原 和裕)	92%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		/	/
金4	1102512003	回路理論II(大内 幹夫)	100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		/	/

○: 出席 △: 早退 ▲: 遅刻 ×: 欠席 -: 公欠 休: 休講 /: 未実施 ■: 定期試験 ■: 追試験 ■: 再試験

出席情報の確認画面



- ※ 出席情報が反映されるのは、履修登録が完了した後です。学期の始めのうちは、出席情報が反映される科目とされない科目があります。出席情報が正確に反映される準備が整った後、掲示にてその旨周知します。それまでは暫定的な情報として確認してください。
- ※ その他、次ページ「よくある質問」を参照してください。

2. 出席確認に関する FAQ

Q 出席データはいつ UNIPA へ反映されますか？

A 原則授業日の翌日午前 5 時 30 分に UNIPA へ反映されます。

Q 学生証をタッチしましたが出席になっていないのはなぜですか？

A ①当該授業であると認識できる範囲は、授業開始の 10 分前から授業終了までです。

そのため、授業開始の 10 分以上前にタッチしてしまうと出席として扱われません。

学生証をタッチした時間については、入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム※）より確認できます。

学籍番号と共通パスワードを入力後、メニューの「出席管理」→「あなたの足跡」を選択すると別ウィンドウが開きますので、「読取日」に確認したい日付を設定し、「レポートの表示」をクリックしてください。10 分以上前にタッチしてしまったことが確認できた場合は、画面のハードコピーを印刷し授業担当教員に相談してください。

②出欠を厳格に管理されている先生の場合、タッチされた時間や授業態度等を基に UNIPA の出席記録を修正されることがあります。身に覚えがある場合は授業担当教員に質問してください。

Q 授業に出席しましたが MARCO システムにも反映されていませんか？

A 学生証が正しく認識されなかった可能性がありますので授業担当教員に相談してください。

その際、授業当日のノート、配布物等を事前に用意しておいてください。なお、工学部・未来科学部事務部では出席の確認は行えません。

Q 学生証を忘れてしまったのですが、どうすればよいですか？

A 2 号館 1 階の受付にて学生証忘れカードの発行を行ってください。当日はそのカードを使用してください。

※入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム）

<https://marco.ms.dendai.ac.jp/>

成績確認

1. 成績の確認について

自分の成績を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 1** 画面上部のメニューから **成績関連** ⇒ **成績照会** をクリックすると、成績照会画面が表示されます。

成績照会

表示パターン

☒ 通常
☐ 年度学期別

表示設定

☒ 評価名称
☒ 不合格科目
☒ 履修中科目
☒ 単位修得状況欄

表示

科目名	単位	評価	年度	学期	教員氏名
<必修科目>					
電気電子工学特別演習I	2.0	A	2011	後期	柳父 悟
電気電子工学特別演習II	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学グループ輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学全体輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学特別研究I	6.0	A	2012	後期	平栗 健二

(注) 科目名の先頭に※が出力された科目は現在履修中です。

単位修得状況

科目分類	修了要件						合計										
		必修	選択														
				自専攻	任意選択												
修得済単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0											
履修中単位	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
合計単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0											

成績照会画面



※ 「単位修得状況」欄の修了要件は研究科・専攻により異なります。

その他の主な機能

1. 個人別情報について

自分の個人情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

1 画面上部のメニューから **個人別情報** ⇒ **学籍情報照会** をクリックすると、学籍情報照会画面が表示されます。

【主な情報】

- ・ 氏名、住所、保証人の連絡先など、個人に関する情報
- ・ 専攻、学年、カリキュラム年度など、学籍に関する情報
- ・ 過去の GPA 値など、学業に関する情報

※項目は追加・削除される場合があります。

学籍情報照会

戻る

学生基本情報

学籍番号	
学生氏名	
カナ氏名	
英語氏名	
旧姓氏名	
旧姓氏名(カナ)	
性別	男性
生年月日	
所属学科組織	大学 EEC
カリキュラム学科組織	EC
学年	3
国籍	日本
異動履歴	連続(2012年04月01日)
就学種別	一般入学生
入学期NO	1
カリキュラム年度	2010
入学年度	2010
入試種別	公募制推薦入試
セメスタ	
入学日付	2010年04月01日
出学日付	
卒業・修了予定年月	2014年03月
修了予定日	
専攻コース種別	履修上限単位数

個人情報照会画面



※ 住所や保証人の連絡先など、個人に関する情報が変わった場合は、速やかに学生支援センター（学生厚生担当）に申し出て変更手続きを行ってください。

2. メール設定について

メールアドレスの登録を「DENDAI－UNIPA」で行うことができます。

- 画面上部のメニュー項目の上にある **メール設定** をクリックすると、メールアドレスの登録が表示されます。

「受信メールアドレス(PC)」には、大学から付与される学籍番号がついているメールアドレスが設定されています（変更不可）。

このアドレスのほか、「受信メールアドレス(携帯)」の欄にメールアドレスを登録することが可能です（「携帯」とありますが、携帯電話のメールアドレス以外でも登録可）。

サイト NIPA

ホーム **メール設定** ナイトマップ ログアウト

時間割 授業 成績関連 アンケート/Q&A

ル マイステップ

教員からのお知らせ 全授業

教員からのお知らせです。必ず確認してください。

■ メール設定 取消

受信メールアドレス(PC)

受信メールアドレス(携帯)

確定

※確定ボタンをクリックすると、設定したアドレスにメールが送信されます。

メールアドレス設定画面



※ 掲示情報は原則として「DENDAI－UNIPA」のみに配信されますが、急を要するものや重要度の高い掲示はメールアドレスにも同時配信されることがあります。

3. 時間割について

時間割情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 画面上部のメニューから **時間割** をクリックすると、時間割メニューが複数表示されます。

時間割は「カレンダー表示」または「一覧表示」で見ることができます。

時間割の種類	表示される内容
学生時間割表	履修登録をした科目が表示される時間割。 履修確定前でも、履修状態にある科目は表示されます。
教員時間割表	教員ごとの時間割表を検索することができます。
授業時間割表	自分のカリキュラム、自分の所属する学年次以下の科目が 全て表示されます。

上級学年や自学科以外の時間割を表示させる方法

※「一覧表示」の形式です。

「戻る」⇒「条件検索」
授業時間割表画面で「戻る」を押すと、条件検索が画面になります。
学年を上級学年にすると、上級学年の今年度開講する時間割が見られます。
※カリキュラムが異なる場合、科目名等が違う場合がありますので注意してください。



※ 時間割を見る際は、授業科目担当教員名の間違い等がないように注意してください。特に自分の学年以外の科目・他研究科の科目などを見る際は、大学院要覧の「授業科目配当表」なども確認し間違いのないように気をつけてください。

第4章 生活案内

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

1 事務取扱事項と取扱時間

部 署 名		取扱時間	主な事務取扱事項	備 考
工学部・未来科学部事務部 (2号館3階)		月～金曜日 8:50～13:10 14:10～21:30	・授業、試験、成績等に関すること ・履修登録の手続き ・教職課程の履修手続き ・成績証明書、卒業証明書等の発行 ・レポート・欠席届の受付など	学内業務により窓口の停止や時間短縮となることがあります。
学 生 支 援 セ ン タ ー	学生厚生担当 (2号館3階)	土曜日 8:50～13:10 14:10～19:40	・休学・退学・復学等の学籍手続き ・課外活動の手続き ・各種奨学金 ・学生証、学割証の発行 ・在学証明書等の発行 ・学生教育研究災害傷害保険の取扱い ・学生生活相談、遺失物・拾得物の取扱い ・学生の学外活動補助等の受付	
	健康相談室 (2号館3階)	月～金曜日 8:50～13:10 14:10～21:00 変更時は入口の掲示にてお知らせします。	・定期健康診断 ・平常の健康相談 ・傷病応用処置 ・健康診断証明書発行の相談	土曜日の取扱時間は健康相談室の入口の掲示板で確認してください。
	学生相談室 (2号館3階)	学生相談室の入口の掲示板にてお知らせします。	・学業上、生活上などの個人的な相談 ・専門家によるカウンセリング	
	キャリア支援・就職担当 (2号館3階)	月～金曜日 8:50～13:10 14:10～20:00 土曜日 8:50～13:10 14:10～17:00	・キャリア支援、低学年指導 ・就職の斡旋・就職支援と相談 ・インターンシップ情報 ・アルバイトの紹介など	学内業務により窓口の停止や時間短縮となることがあります。
国際センター	(2号館3階)	月～土曜日 9:00～17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること	
	千住ラウンジ (1号館4階)	月～金曜日 10:00～17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること ・日本人学生と留学生の交流に関すること	
経理部（会計担当） (1号館5階)		月～土曜日 9:00～17:00	・学費の取扱い ・学費振込用紙の再発行	

- ・取扱停止、時間変更等がある場合は部署ごとに、その都度掲示によりお知らせします。
- ・長期休業期間は、窓口取扱時間及び証明書自動発行機の稼働時間が通常と変更になりますので、事前に掲示を確認してください。

2 主な書類の提出先と証明書の申込先

願・届・証明書の取扱部署は次のとおりです。

2-1 願出・届出

願出・届出の名称	取扱部署	手続き・必要添付書類等
変更届	学生支援センター (学生厚生担当) (2号館3階)	学生証(学生) ※新旧保証人の署名・捺印を要する
		変更が分かる書類(戸籍抄本など)、学生証(学生)
		学生証(学生)
		学生証(学生)
		学生証(学生)
学内集会願		2週間前、学外参加者がいる場合はその名簿
学外活動願		2週間前、参加者名簿
休学願		願い用紙、(診断書等)、在籍料振込用紙本人控のコピー
復学願		願い用紙、(診断書等)
退学願		願い用紙、(診断書等)
学費延納願		所定の用紙を学費納入期限日までに提出
転学部・転学科願		願い用紙
履修届	工学部・未来科学部事務部 (2号館3階)	所定の期日(別途掲示) 【注】履修に関する他の願出・届出は「履修案内」を参照してください。
欠席届		医師の診断書または理由書等証明書を添付の上、各授業担当教員へ提出 (1週間以上欠席の場合は工学部・未来科学部事務部にも提出)
追試験願		医師の診断書または理由書等証明書
科目等履修生願		願書、卒業証明書、成績証明書、健康診断書、資格審査料
学費振込用紙再発行願	経理部 (会計担当) (1号館5階)	電子メールによる申請可(第4章7学費参照)

2-2 証明書

各種証明書は2号館3階の証明書自動発行機で取扱います。ただし証明書によっては申込み用紙を出力した上で取扱部署に申し込みます。証明書の発行は日数を要しますので、それぞれ取扱部署で確認して申し込んでください。

証明書の名称		手数料 (円)	取扱部署	備考
成績証明書	日本語	300	工学部・未来科学部事務部 (2号館3階)	
	外国語	1,500		発行までに1週間を要する
修了見込証明書	日本語	200		
	外国語	1,200		発行までに1週間を要する
修了証明書	日本語	500		
	外国語	1,200		発行までに1週間を要する
修了成績証明書	日本語	500		
	外国語	2,000		発行までに1週間を要する
人物に関する証明書		500		(在学生)
		1,000		(修了生)
元在学成績証明書		1,000		
科目等履修生単位取得証明書		1,000		
建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書		500		平成21年度以降建築学専攻に入学し、修了した者
在学証明書	日本語	200	学生支援センター (学生厚生担当) (2号館3階)	
	外国語	700		発行までに1週間を要する
元在学証明書	日本語	500		
	外国語	700		発行までに1週間を要する
通学証明書		無料		
学生証再発行		2,000		翌日発行(土日祝除く)
学生旅客運賃割引証		無料		
健康診断証明書		200	健康相談室	

※ 学部学生時の証明書は卒業生扱いとなります。在学生用ではなく卒業生用の申請書に卒業時の所属を記入の上、申し込んでください。

3 正課授業による閉館時間中の施設利用

開館時間は平日 7：30 ～ 22：30 まで（休日・祭日は閉館）となります。

研究等の理由により、やむを得ず研究室等に残留を希望する場合には、あらかじめ指導教員へ申し出てください。許可が得られた場合に限り、指導教員が該当施設の施錠・解除の予約設定（平日 22：30 ～ 翌日 7：30（休日は 9：00 ～ 18：00））をします。

4 大学院研究費による補助取扱い

【取扱い】

大学院研究費は、旅費補助・総合メディアセンター利用料（プリントポイント、文献複写費用、他）に適用されます。

【旅費補助】

大学院生が旅費補助申請できるのは、国内外の学会に参加する場合（発表・聴講）に限ります。

また、特別な専攻分野で、研究指導教員が特に必要と認める現地調査についても、同様に申請することができます。

〈手続き〉

- 「出張旅費（概算・精算）請求書（学生用・研究員等用）」に、
- ・「見積・納品・請求書」または「領収書（立替払いの場合）」
 - ・学会に参加する場合は、「学生本人の発表が確認できるもの、または聴講内容の確認できるもの（プログラム等）」
 - ・現地調査の場合は、「現地調査計画書」（工学部・未来科学部事務部に有り）を添付の上、研究指導教員に提出してください。

※「出張旅費（概算・精算）請求書（学生・研究員等用）」は、研究指導教員に配布されています。

または、工学部・未来科学部事務部にあります。

※宿泊費及び日当については、別表 1、別表 2 のとおりです。

※連名による学会発表で本人が直接発表しない場合は当該専攻主任の承認も必要です。

別表 1. 国内出張旅費支給基準

宿泊費（※ 1）	日当（宿泊出張および所要往復距離数 300km 以上の日帰り出張）（※ 2）	日当（所要往復距離数 100km 以上 300km 未満の日帰り出張）（※ 2）
11,000 円	3,000 円（ただし、午後出発又は午前帰着の場合は半額の 1,500 円）	1,000 円

（※ 1）上表の額を上限とし、実費を支給します。

（※ 2）東京都内、埼玉県内及び千葉県内に所在する本法人の施設への出張については、支給しません。

別表 2. 海外出張旅費支給基準

A 地方（※ 1）		A 地方以外		機中泊 （日当のみ）
宿泊費（※ 2）	日 当	宿泊費（※ 2）	日 当	
12,100 円	4,000 円	8,100 円	2,700 円	2,700 円

（※ 1）A 地方に該当する指定都市及び地区（「国家公務員等の旅費に関する法律」による指定都市又は甲地区という）は、研究指導教員に配布されている「海外出張旅費地方早見表」を参照してください。

（※ 2）上表の額を上限とし、実費を支給します。

国内出張の場合には出張前に学生・研究員等用の「出張通知書」、出張後に「出張報告書」を、海外出張の場合には出張前に「海外出張願」、出張後に「海外出張報告書」を各専攻事務室へ提出してください。

これらの書類は旅費補助申請をしない場合でも提出が必要です。

※学生・研究員費等用の「出張通知書」、「出張報告書」、「海外出張願」、「海外出張報告書」は、研究指導教員に配布されています。

5 学 籍

学生の皆さんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、修了により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、学生支援センター（学生厚生担当）で次の手続をしてください（いずれも所定の願用紙を使用してください）。

① 休 学

傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を受ける必要があります。なお、傷病により休学願を提出する場合は、医師の診断書を休学願に添付して提出してください。

休学できる期間は許可を受けた年度に限ります。また、休学の申請期間は学期途中から休学する場合でも半期ごと（6 ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。なお、特別な事情があると認められた場合は、再休学を許可することがありますが、その場合は再度手続きが必要です。休学期間は在学年数に算入されません。休学は合計 2 年間まで許可することがあります。

また、休学期間中は在籍料の納入が必要です（半期 60,000 円）。ただし前期休学または通年休学は 4 月末日、後期休学は 10 月末日までに願を提出する必要がありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）に問い合わせてください。

※手続きを進めるにあたり、指導教員・専攻主任との面談を行い、休学願への決裁が必要です。

② 復 学

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を受けてください。傷病等により休学していた場合は、復学願に医師の診断書を添付して提出する必要があります。復学時期は原則として学期の始めとなります。休学期間満了後、復学する場合は、当該学年の正規進級学年次生の学費が適用され、学費を納入しなければ復学できません（詳細な手続き方法は休学期間満了の時期に本人宛に郵送で通知します）。

③ 退 学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を受ける必要があります。退学の期日は原則として学期末（前期：9月10日、後期：3月31日）となります。退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。退学を希望する学期末を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなりますが、前年度末（3月31日）付退学は4月末日、前期末（9月10日）付退学は10月末日までに退学願を提出すれば期日を遡って退学を許可する場合もありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）窓口にお問い合わせください。
※手続きを進めるにあたり、指導教員・専攻主任との面談を行い、退学願への決裁が必要です。

④ 除 籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

- （1）最長在学年限（学則第6条：修士課程4年、博士課程（後期）6年）を超えた者
- （2）休学期間を超えてなお復学しない者
- （3）学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- （4）正当な理由がなく、無届けで、引き続き3ヶ月以上欠席した者
- （5）所定の学費納入期限から起算して3ヶ月以内に学費を納入しないとき
（ただし、年度末を越えてはこれを認められないので、年度内の指定された日に必ず納入のこと）

⑤ 再入学

本大学院を退学した者または除籍された者が、同一の課程及び専攻へ再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しません。

6 学生証

① 学生証の携帯

学生証は、皆さんが本学の学生であることを証明するものです。学生証は常に携帯し、学内では専用ストラップ付ケースに入れて首から提げてください。また、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。学生証は、東京千住キャンパス内のセキュリティゲートの通過や、授業の出席、証明書自動発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸出の際や、大規模災害時の安否確認にも必要です。特に、学力考査を受ける際には必要ですので注意してください。

万一学生証を忘れて登校してしまった場合は、2号館1階受付で学生証忘れカード発行手続きが必要となります。学生証忘れが頻繁に続く場合、何らかの措置をとる場合があります。

学生証の取扱いは、2号館3階学生支援センター（学生厚生担当）で行っています。

② 学生証の交付と年度更新

新入生：入学式当日に交付。

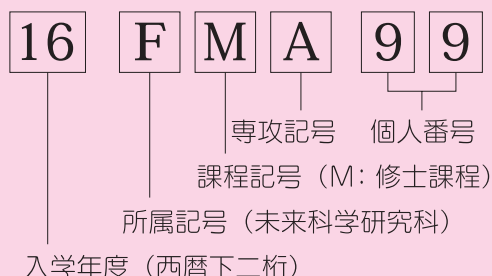
在学生：毎年4月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施しますので、定められた期間内に必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPAにてお知らせします。

③ 学籍番号について

学生証に記載された7桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、皆さんの修了・満期退学後も各種証明書の発行等で利用します。

学籍番号のしくみ

[2016年度入学 未来科学研究科 修士課程建築学専攻 99番の例]



所属専攻記号

学内においては、各専攻を簡単にアルファベット記号で表しています。

建築学専攻…FMA

情報メディア学専攻…FMI

ロボット・メカトロニクス学専攻…FMR

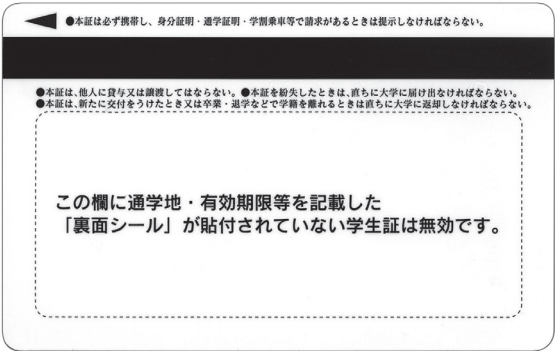
④ 学生証の紛失・汚損

学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。2号館3階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000円）を出力し、必要事項を記入の上、学生支援センター（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、翌日に交付します。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。



〔表面〕



〔カード裏面〕

通学地		東京都足立区千住旭町5番 03-5284-5340(ダイヤルイン)				有効期限
現住所						2017.3.31
通学区間		～				東京電機大学
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通学期間	発行駅	発行年月日	通学期間	発行駅
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	
						大学記載欄

〔裏面シール〕

7 学 費

(1) 納入期限（平成 28 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
(入学手続き時に前期分学費は納入済)	10 月末日	後期分の振込用紙を 7 月下旬に発送。

新入生以外

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後期の 2 枚）を発送。

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

(2) 納入方法

本学所定の学費振込用紙を用いて銀行から振り込んでください。前期と後期の年 2 回払いです。事情により、ATM やネットバンキングを使用する場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力して振り込んでください。

(3) 学費振込用紙について

- ① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
- ② 保証人住所及び氏名は、学生支援センター（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は、学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きしてください。
- ③ 保証人以外の宛先を希望する場合は、経理部（会計担当）にて手続きしてください。
- ④ 紛失した場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをしてください。

※上記④は、電子メールでの手続きも可能です。

⇒経理部（会計担当）メールアドレス : gakuhi@jim.dendai.ac.jp

(4) 学費延納

- ① 経済的な理由等により学費を納入期限内に納入できず延納を希望する場合は、納入期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
- ② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由の記入が必要です。納入期限までに提出できるよう準備してください。用紙は学生支援センター（学生厚生担当）にて配付します。
- ③ 延納が許可される期間は、前期は 6 月末日、後期は 12 月末日迄です。

(5) その他

- ① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。
- ② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次生と同額となります。
- ③ 休学の場合は、半期6万円の在籍料がかかります。在籍料の振込用紙は、学生支援センター（学生厚生担当）で受け取ってください。

学費に関する情報はホームページにて確認できます。
<http://web.dendai.ac.jp/campuslife/expenses>

8 奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、本学独自の奨学金や日本学生支援機構をはじめ、各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は学生支援センター（学生厚生担当）で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡はすべて UNIPA で行いますので、見落とすことのないよう十分注意してください。

なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する場合は、随時、相談してください。主な奨学金制度には次のものがあります。

① 東京電機大学学生救済奨学金（本学独自：貸与・無利子）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。

資 格	大学院・学部 に在学し、保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難な学生（卒業年次生優先）。貸与は在籍期間中1回に限る。
募集時期	4月と9月の年2回
採用時期	6月下旬頃・11月下旬頃
貸 与 額	該当学期（セメスター）分の学費相当額。奨学金は学費に充当する。
返 還	無利子・卒業後5年間（繰り上げ返還可）
採用者数	15名（平成27年度実績）

② 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自：貸与・無利子）

本学主催の海外英語短期研修への参加及び高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。

資 格	大学院・学部に進学し、本学主催の海外英語研修への参加及び高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生。貸与は在籍期間中1回に限る。
募集時期	随時 （＊海外英語研修参加者には、参加決定後別途連絡）
採用時期	随時
貸 与 額	30万円の範囲内で査定
返 還	無利子・卒業後5年間（繰り上げ返還可）
採用者数	7名（平成27年度実績）

③ 東京電機大学校友会奨学金（本学独自：貸与・無利子）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情の急変により、学業継続が困難な学生に対して貸与される奨学金です。

資 格	大学院・学部に進学し、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生（主に卒業年次生対象）。貸与は在籍期間中1回に限る。
募集時期	随時。ただし、学費に充当するため、学費納入期限以前の応募が望ましい。
貸 与 額	1回に納入する学費等の相当額
返 還	無利子・卒業後5年間
採用者数	0名（平成27年度実績）

④ 東京電機大学大学院貸与奨学金（本学独自：貸与・無利子）

資 格	大学院に進学し、人物優秀にして学業成績が良好、かつ学費の支弁が困難な者。年度毎に、半期学費相当額の貸与が可能。
募集時期	4月と9月の年2回
採用時期	6月下旬頃・11月下旬頃
貸 与 額	該当学期の学費相当額
返 還	無利子・卒業後5年間（繰り上げ返還可）
採用者数	工学研究科26名、未来科学研究科7名、理工学研究科2名、情報環境学研究科4名、先端科学技術研究科1名（平成27年度実績）

⑤ 日本学生支援機構による奨学金

「第一種」(貸与・無利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	50,000円または88,000円
資格	成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められる者。

「第二種」(貸与・有利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	5万・8万・10万・13万・15万円の中から選択
資格	以下のいずれかに該当する者。 (ア) 成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められる者。 (イ) 学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者。

9 副手制度

① 副手制度とは

本学には、大学院の学生が自分の学業・研究の負担にならない範囲で学部の実験・演習等の授業について授業の補助業務を担当することができ、一定の手当てが支給される副手制度があります。

この制度は、学部と大学院の相互教育を促進することを主旨としており、大学院の学生にとっては理論を実験に生かす貴重な場であり、学部の学生にとっては先輩から気軽に学ぶことができますという多くのメリットを持っています。

このような点から、他大学からも評価されている制度の一つです。

最近では、大学院学生の増加に伴い、希望者全員がこの制度に採用されるとは限りませんが、採用された者は良き先輩であり、かつ良き指導者として業務に取り組む意識を持ってください。

② 業務内容

(1) 授業補助

学部の実験、演習等の授業の補助を行います。

(2) 授業外業務

授業実施に関連する前準備、後始末等のほか、留学生や身体にハンディキャップを持つ学生に対する教育上の補助業務、学習サポートセンターに関する業務、学科の諸業務を行います。

(3) 試験監督等

授業補助を担当した者は、学部の学力考査等の試験監督等を行わなければなりません。

③ 手当

毎月決められた支給日に月額が支給されます。

月額は、1 授業担当につき下記のとおりです。

	A	B
	授業補助担当分	授業外業務担当分
修士課程在学者	8,000 円	2,600 円
博士課程（後期）在学者	9,000 円	3,000 円

摘 要

A 欄は毎週授業 1 コマ（2 時間）の勤務につき支給する月額。

※授業補助の勤務時間は、1 コマ＝2 時間として取り扱います。

B 欄は毎週 1 時間の勤務につき支給する月額。

詳細は、副手採用の際に交付される細則等をご覧ください。

10 健康管理

充実した学生生活をおくるには、健康が第一に挙げられます。とくに若い人たちは、自己の体力を過信して、限界を超えた不規則な生活が元で健康を害する事がありがちです。食事・睡眠・運動のバランスの取れた規則的な生活で、自己管理に努めてください。

(1) 学生相談

学生相談室では、進路、単位などの学業上の問題、不眠、無気力などの精神的な問題、家族、友人とのトラブルなど様々な悩みについて、臨床心理士の資格をもったカウンセラーが相談に応じています。一人で考えても、解決策が見つからない時は、抱え込まずに、気軽に相談室を利用してください。相談内容に関しては、担当者以外にもれることはありません。

場所 2号館3階、健康相談室の隣です。

開室時間 月曜～金曜（曜日によって担当者、開室時間は違います。HP、パンフレットなどで確認してください。）

予約は電話、あるいは、メールで受け付けています。

電話番号 03-5284-5346

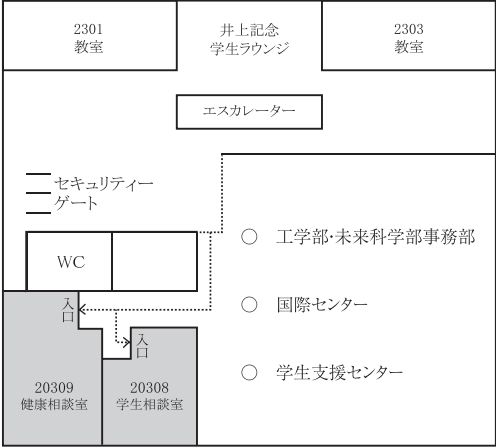
メールアドレス ko-gakuso@cck.dendai.ac.jp

※本学では、平成25年度からは、学生やその保証人を対象として、外部機関を利用した、『電話相談サービス』も開始いたしました。詳細は、別配布のパンフレット等を参照してください。

(2) 健康相談

授業中や課外活動中など学内で気分が悪くなったり、思わぬケガをした時は、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師の資格をもった職員がそれぞれの応急の処置にあたっています。また、必要時、近隣の医療機関を紹介します。

<2号館3階>



*事務室自動ドア入口から入って奥

また、平常の健康相談にも応じています。身長計、体重計のほか自動血圧計や体組成計等も設置して、自由に利用できますので、気軽に来室してください。

(3) 健康保険証について

一部の健康保険証は、ひとり1枚のカードになっています。携帯しやすくなると、便利な反面、紛失しやすくなりますので、注意してください。

一家に1枚しか保険証が発行されていない場合、親元を離れて生活を始める学生は、急な受診に備えて、『遠隔地被扶養者健康保険証』を用意してください。必要書類（手続き）等は加入している健康保険の発行者に問い合わせてください。

(4) 健康診断

① 定期健康診断

毎年春に、全学生を対象とした定期健康診断を実施しています。これは法に基づいたもので、学校が集団生活の場である事と、疾病の予防、早期発見を目的としています。

受診しない場合、就職や進学、アルバイト等で健康診断証明書を必要とした時に発行されない他、体育実技の授業、英語短期研修、その他の実習等の参加にも影響します。必ず受診してください。

〔定期健康診断実施項目〕

- ① 胸部X線間接撮影
- ② 身体計測（身長、体重、視力）
- ③ 内科診察
- ④ 尿検査
- ⑤ 血圧

② 健康診断証明書

学生証を用いて、証明書自動発行機にて発行されます。

料金：1通200円

(5) TDU ところとからだのサポート 24

電話（フリーダイヤル）による24時間・年中無休で、外部委託の専門機関が、心身の健康相談を受けています。詳細は、学生支援センター（学生厚生担当）窓口設置の専用パンフレットで確認してください。

11 保険制度

(1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）＋通学中等傷害危険担保特約（通学特約）

正課及び課外活動中または通学途中などに発生した傷害事故を補償する保険です。

入学手続き時に修業年限分の保険料を納入し、全員が加入者です。この保険の窓口は学生支援センター（学生厚生担当）です。国内外を問わず、事故にあった時は必ず連絡してください。

なお、留年等により正規の修業年限を超えた場合は、再加入の手続きが必要となります。保険料・保険期間を確認の上、必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きを行ってください（＊入学時配布「学生教育研究災害傷害保険のしおり」参照）。

●保険金の種類・金額

	保険金額 担保範囲	死亡	後遺障害	医療	入院(日額)
学研災 2,000 万円 コース	正課中 学校行事中	2,000万円	120万円～3,000万円	0.3万～30万円	4,000円
	上記以外で学校施設内にいる時	1,000万円	60万円～1,500万円	3万円～30万円	
	学校施設外での 課外活動中	1,000万円	60万円～1,500万円	3万円～30万円	
通学特約	「通学中」 「学校施設等と相互間の移動中」	1,000万円	60万円～1,500万円	0.6万～30万円	

注 1) 医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療日数に応じて異なります。

2) 正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が、1日目から支払われます。また、上記以外の学校施設内にいる間の事故、課外活動中の事故は、実治療日数が14日以上、移動中の事故は、実治療日数が4日以上の場合に支払われます。

●保険料・保険期間（学生教育研究災害傷害保険＋通学中等傷害危険担保特約）

保険期間	保険料適用区分
1年間	1,000円
2年間	1,750円
3年間	2,600円

注 1) 保険期間は所定の修業年限です。

2) 保険期間の切れた者（留年・休学者）は、証明書自動発行機より1年間保険料を納入し再加入してください。

3) 詳細は、「学生教育研究災害傷害保険のしおり」（入学時に配付）参照。

(2) 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

国内外での研究期間中、正課授業中、学校行事中、就業体験（インターンシップ）中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

この保険の補償内容は「(3) インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（インターン賠）」の補償内容を含みますので、先に学研賠に加入した場合は、インターン賠に加入する必要はありません。

この保険は任意加入制です。学外の研究機関や企業へ実習に行く際に受入れ先から加入するよう依頼があった場合は、学生支援センター（学生厚生担当）で加入申請の手続きを行ってください。なお、申し込みにあたっては、「(1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）」への加入が義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険概要	活動内容	
	正課、学校行事、課外活動、インターンシップ、ボランティア活動およびその往復	
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

注 1) 学外での実習先決定後、学生支援センター（学生厚生担当）で加入の手続きを行ってください。

2) 詳細は、「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配付）参照のこと。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	340 円
-----------	-------

注 1) 保険期間は加入日の翌日～年度末。

2) 証明書自動発行機より保険料を納入してください。

(3) インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等における就業体験（インターンシップ）中や、教育実習中、ボランティア活動中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

この保険は任意加入制です。インターンシップの場合は学生支援センター（キャリア支援・就職担当）で、教育実習の場合は工学部・未来科学部事務部で加入申請の手続きを行ってください。なお、申し込みにあたっては、「(1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）」への加入が義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険概要	活動内容	
	インターンシップ、教育実習、ボランティア活動およびその往復	
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

注 1) インターンシップ受入企業決定後、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）で加入の手続きを行ってください。

2) 詳細は、「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配付）参照のこと。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	210 円
-----------	-------

注 1) 保険期間は加入日の翌日～年度末。

2) 証明書自動発行機より保険料を納入してください。

(4) 加入証明書について

(1) ～ (3) のいずれの保険についても、加入証明書を発行することができます。研究機関やインターンシップ先から加入証明書の発行依頼があった場合は、学生支援センター（学生厚生担当）窓口にて「学研災・学研賠加入証明書発行願」に記入の上、申し込んでください。証明書の発行は申込み日から 2 日後（ただし土・日・祝日は除く）となります。

12 教育訓練給付制度

「教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

雇用保険の一般被保険者又は一般被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する職業に関する教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の 20%（支給要件期間が 3 年以上、ただし、初回に限り 1 年以上の者）に相当する額（上限 10 万円）がハローワークから支給されます。

本研究科は平成 21 年 4 月より教育訓練給付施設として指定されました。この指定によって、所定の条件を満たす大学院生は給付金を受けることができます。なお、現在開設している修士課程すべての専攻が講座の指定対象となっています。

※概要、対象者、申請手続き等について、下記のホームページに掲載されています。よく読んで申請をしてください。

http://www.kyufu.javada.or.jp/kensaku/T_M_seido

13 校友会

皆さんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を目にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

1. 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生の皆さんへの支援も行っています。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

2. 校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校、電機学校）の同窓会、各県支部（皆さんの出身地にもあります）や公認団体として職域電機会（同じ職種や企業内同窓会）があります。将来、これらの組織が就職活動等で皆さんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しています。

3. 東京電機大学校友会奨学金

この奨学金制度は、各学期の学費納入期限までに募集しています。学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた場合に、書類審査及び面接により校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

- 貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の 1/2 相当額
- 返 還：卒業後半年据え置いた後、5 年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済（一括返済可・無利息）

4. 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後のOB／OG会やクラス会の開催の援助はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は、大学院・大学・短大で約 11 万名に達しています。

また、在学生の就職進路におけるキャリア支援事業に対しても支援をしています。大学同窓会では学園と協力して“仕事研究セミナー”の開催及び、産業界で活躍している先輩方による就職進路相談などの行事に対しても協力しています。社会の第一線で活躍する卒業生による「仕事」に対してのアドバイスは、就職活動中の学生には好評を得ています。

さらに、各キャンパスにおいて学園祭に合わせて、「OB 交歓会」を開催しています。開催日同日には、優秀な学生団体に対して丹羽賞及び、同窓会奨励賞の授与式を実施するなど、卒業生と在学生との交流を図る行事を開催しています。

①丹羽賞

初代学長の丹羽保次郎先生が、生前に大学同窓会に対して寄付をしていただいた基金を基にして創設されたものです。在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去１年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体を表彰します。

②同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を行っている団体を表彰します。

5. 校友会を訪ねてください

校友会の事務室は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたら気軽に相談してください。

一般社団法人 東京電機大学校友会
〒 120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番
東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階 1 2 0 3 室
TEL : 03-5284-5140
FAX : 03-5284-5187
E-mail : kouyukai@jim.dendai.ac.jp
URL : <http://www.tduaa.or.jp/>
業務時間 9:00 ～ 17:00

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。

そのためには、学生等が教育・研究などの諸活動を相互信頼のもとに進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、性的な対象として心理的、身体的に傷つけたりすることはあってはならないことです。

しかし不測の事態に備え、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント対策委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を組織して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。

平成16年4月1日宣言

TDU

東京電機大学

TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京千住キャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。

詳細は専用パンフレットで確認してください。



What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。

教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の2つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの?」、「子供はまだなの?」と聞く。

* アカデミック・ハラスメントとは *

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。

拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら*

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら*

周りの人にも
できることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために*

私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性がありますと同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第5章 各種施設の利用

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。総合メディアセンターのサービスは、東京千住キャンパスはもとより、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）、千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つのID（学籍番号）とパスワードで利用することができます。

学生証

総合メディアセンターのサービス（図書資料の貸出、コンピュータの利用（印刷）、入退室管理等）を利用するときに必要です。学内では必ず学生証を首から下げるようにしてください。

パスワード

パスワードは、総合メディアセンターの各種サービスとポータルサイト（DENDAI-UNIPA）を利用するために必要です。他人に乱用されるなどの悪用を防ぐよう、責任を持って管理してください。個人データとシステムを守るために初期パスワードは必ず変更してください。推測されやすいパスワードは危険ですので、他人に判らず、自分が忘れないものにしましょう。また、パスワードは定期的に変更し、セキュリティの確保に努めるようにしてください。

サービス時間

授業期間中は下記時間帯に利用できます。

場所	施設	開館時間
2号館 1、2階 (入口は1階のみ)	図書館	月～土（休講日除く） 8:45～21:45 (一部施設は21:30まで)
2号館 4階	PC教室	月～土（休講日除く） 9:00～21:30

都合により変更になる場合があります。また、休業期間中にも開館している日がありますので、詳細は総合メディアセンターのWebページもしくは掲示を確認してください。

総合メディアセンターのWebページ

<http://www.mrcl.dendai.ac.jp/>

各サービスのメニューが表示されます。

見たいサービスやカテゴリをクリックしてください。

利用上の注意

■環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むこと・喫煙は強く禁止します。

※ただし、図書館内では、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持込みを認めています。

- 総合メディアセンター施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことを禁じています。濡れた傘は、備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。
- 他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。
- 携帯電話の通話は禁止します。どうしても使用したいときは、総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- 総合メディアセンター内ではスタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
- 総合メディアセンターの施設及び資源は、教育・研究を目的としたものです。目的以外に利用した場合、その他、不正行為を行った者は、学則に則って処分します。

図書サービス

(1) 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取り寄せて利用することができます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部1～3年生	5冊	2週間
卒業年次生（学部4年生）	10冊	1ヶ月
大学院生	10冊	1ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、または、図書WebページからIDとパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書資料を延滞した場合、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。なお、借用中の図書資料を紛失したり汚損した場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文及び学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（DVD など）
5	貴重書

※表にある 1 ～ 4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は図書館内の複合機を利用してください。
著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。
図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

(2) 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。修了・退学・除籍・転研究科・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。
休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。
東京千住キャンパスでは、2 号館 1 階に設置しています。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。図書資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへ取りに来てください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数
 東京千住 ⇄ 埼玉鳩山・千葉NT 1 ～ 2 日
 埼玉鳩山 ⇄ 千葉NT 2 ～ 3 日

※状況によって日数に変更になる場合があります。

(5) 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料及び利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、OPAC で検索ができます。図書館内の館内 OPAC 端末及び総合メディアセンターの図書 Web ページから利用してください。
当日貸出サービス	グループスタディ（予約制）の利用や、プロジェクター・ノート PC などの各種機器、USB 扇風機・ひざかけなどの貸出を行っています。

Web によるお知らせとサービス (<http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/>)

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

- ・ 資料検索
- ・ 図書資料予約
- ・ 返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
- ・ 借用図書の貸出期間の更新
- ・ 文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
- ・ 図書購入依頼（購入希望図書の申込）
- ・ 新着図書情報
- ・ ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
- ・ オンラインジャーナル（IEL Online、ACM Portal、他多数）
- ・ 各種データベース
- ・ 電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

- ・ 予約図書資料到着のお知らせ
- ・ 貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
- ・ 返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
- ・ 延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
- ・ 文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
- ・ 購入希望図書到着・却下のお知らせ

(6) 各種設備

メディアゾーン	開架書架・集密書架エリアには、図書がNDC（日本十進分類法）により主題別に分類されています。また、集密書架エリアには学術雑誌（バックナンバー一部含む）も配架されています。受験書や就職本、旅行・レジャー・地図などの図書のコーナーも設置しています。読みたい本を自由に探して閲覧することができます。静粛閲覧エリアもあります。
ラーニングゾーン	グループスタディエリアは、ディスカッションしながらの学習や、プレゼンテーションの練習等、グループで使うことができます。ラーニングcommonsエリアは、相談しながら学習が可能なエリアです。可動式のホワイトボードを設置しています。
リーディングゾーン	閲覧エリアとブラウジングエリアがあります。ブラウジングエリアは、くつろいで新聞や雑誌を読みたいときに利用してください。また、日替わりで本学の所蔵しているDVDを放映しています。

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

2号館 1 階または 2 階のカウンター
 メール：k-library@mrcl.dendai.ac.jp

コンピュータサービス

総合メディアセンターでは、コンピュータ関連のシステムを数多く整備しています。ここでは、皆さんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。活用してください。

(1) ユーザ端末システム

総合メディアセンターが管理運用しているPCです。1つのID(学籍番号)とパスワードで、全キャンパスのユーザ端末システムが利用できます。

授業が実施されていないPC教室は自習利用として開放しています。また、自分のPCからユーザ端末システムと同等な環境を利用できるリモートサービスも備えています。授業・研究で利用するための多種多様なソフトウェアがインストールされていますので活用してください。

ただし、システム保護のため、ソフトウェアのインストールや各種設定の変更等はできませんのでご了承ください。

(2) プリントシステム

ユーザ端末をはじめ、学内ネットワークに接続されたPCから利用できるオンデマンド方式の印刷環境です。プリント・コピー・スキャンができる複合機やモノクロ・カラー大判プリンタがあります。ただし、教育・研究目的以外の利用は禁止しています。

プリントシステムはプリントポイントによる出力管理を行っています。毎年度初めに各ユーザに初期のプリントポイントとして 1,000 ポイントを付与し、利用の度に利用種別に応じたプリントポイントが消費されます。プリントポイントの追加には、申請が必要です。必要ポイント数の「総合メディア印刷ポイント」を証明書自動発行機で購入し、2号館4階PCカウンターへ提出してください。ただし、年度をまたぐプリントポイントの持ち越しはできないので注意してください。

参考) ユーザ端末、プリンタ設置台数

場所	室名	ユーザ端末	複合機	モノクロ大判	カラー大判
1号館6階	学生ラウンジ		1台		1台
2号館1階	閲覧エリア1		1台		1台
2号館2階	閲覧エリア4	4台	2台※		
	静粛閲覧エリア		1台		
2号館4階	PC教室1	84台	1台		
	PC教室2	42台	1台		
	PC教室3	68台	1台		
	PC教室4	56台	1台		
	PC教室5	80台	3台	2台	
	PC教室6	50台	2台	1台	1台
	PC教室7		1台		1台
	プリントルーム	2台	1台	1台	1台

※閲覧エリア4に設置している複合機の1つは現金利用複合機です。

※設置場所や設置台数は変更する場合があります。最新の情報は、Webページで確認してください。

(3) メールシステム

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。

メールアドレスは、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

ブラウザを利用した Web メールシステムも提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorer などのブラウザが使える環境があればメールの送受信が可能です。また、メールを他のメールアドレスや携帯電話に転送するよう設定ができますので活用してください。

大学からのお知らせが個人宛に送られてきますので、日々確認してください。

マナーを守り、コミュニケーションツールとして利用してください。

(4) ネットワーク

■無線 LAN

東京千住キャンパス内では、ほぼ全域で無線 LAN の利用ができます。

■情報コンセント

東京千住キャンパスでは、以下の場所に情報コンセントを備えています。

場所	施設名称
1 号館 2 階	丹羽ホール
2 号館 1 階	図書館
2 号館 2 階	図書館
2 号館 4 階	PC 教室 5（一部）、PC 教室 6（一部）、PC 教室 7
2 号館 9 階	2901、2903 教室
2 号館 10 階	21001、21003、21004、21005 教室

利用に際しては認証が必要になります。利用方法については Web ページを参照してください。

インターネット / SNS の利用について

- ・インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外他機関の通信用コンピュータや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするために、無駄な接続やデータ転送をしないよう心がけて利用してください。
- ・総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、ネットワークの利用状況を常時モニタリングしています。
- ・メールアドレスを間違えたり、むやみに大量データの送受信をしたりしないでください。
- ・インターネット上の情報（文章・画像・音声等）の取り扱いは、著作権を侵害しないよう細心の注意を払ってください。また、「学内ネットワークを利用した営利行為」「迷惑メールの発信」「個人・特定団体への誹謗・中傷」「著作権侵害行為」などの悪質な行為は、学則に則って処分します。
- ・コメントの書き込みや記事の投稿が可能なソーシャルメディアを利用する場合には、不用意な言動が、あなた自身や家族に深刻な状況をもたらすことがあります。投稿内容は様々な地域や立場の人たちが目にします。それぞれ様々な文化的背景や価値観を持っている人たちです。ある人には問題のない言動であっても、別の人に対しては攻撃的であったり、配慮に欠けた言動と捉えられる場合があります。投稿する話題の選び方、言葉遣いと表現には注意しましょう。

(5) ソフトウェアライセンス

学生所有の PC においても大学で契約しているライセンス形態に応じて、利用できるソフトウェアがあります。

例) Microsoft 製品, Mathematica, MATLAB, Chem Bio Draw 等
ソフトウェアによりサービス内容が異なりますので、詳しくは Web ページを確認してください。

(6) PC 周辺機器貸出サービス

2 号館 4 階 PC カウンターでは、以下の PC 周辺機器を貸し出しています。必要な場合には窓口まで申し出るようにしてください。

- ・外付け DVD ドライブ
- ・ヘッドセット（授業利用優先）
- ・LAN ケーブル（1m）
- ・カードリーダー（SD カード、MS、CF 等対応）

貸出日当日に返却してください。

(7) サイネージ（電子掲示板）・KIOSK 端末

東京千住キャンパスのラウンジやロビーの各所にはサイネージ・KIOSK 端末が設置されています。

サイネージには休講補講情報や大学からのお知らせ等が表示されますので確認してください。また、KIOSK 端末に学生証をかざすと、ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）や図書館の Web ページ、またサイネージの掲示を確認することができますので活用してください。

(8) 相談、申請

- パソコン操作やプログラム作成時のエラーなどで困ったとき
本学の大学院生が白衣を着用し利用相談員として勤務しています。

期間 : 授業期間中

場所 : 2 号館 4 階 PC 教室

※原則、自習開放している教室に勤務しています。

メール : pg-soudan@ms.dendai.ac.jp

※メールでの質問は授業期間中ならば随時受け付けています。

■各種申請手続き

総合メディアセンターへの申請手続きは、2号館4階PCカウンターにて受け付けています。

・プリントポイント追加申請

申請書の他に証明書自動発行機で「総合メディア印刷ポイント」の購入が必要です。

・パスワード初期化申請

パスワード初期化には2運営日かかります。初期化が必要とならないよう注意しましょう。

場 所： 2号館4階PCカウンター

メール： k-computer@mrcl.dendai.ac.jp

第6章

学則及び諸規程

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 東京電機大学大学院学則

第1章 総 則

第1条（目的） 本大学院は、本大学の使命に従い、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的とする。

2 本大学院は、第3条第1項に定める研究科及び専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各研究科の研究科規則に定める。

第2条（自己評価等） 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3 本大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4 本大学院は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 編 成

第3条（研究科・課程・専攻） 本大学院に工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科及び先端科学技術研究科を設け、各研究科に次の課程及び専攻を置く。

工学研究科

修士課程

電気電子工学専攻

物質工学専攻

機械工学専攻

情報通信工学専攻

理工学研究科

修士課程

理学専攻

生命理工学専攻

情報学専攻

電子・機械工学専攻

建築・都市環境学専攻

情報環境学研究科

修士課程

情報環境学専攻

未来科学研究科

修士課程

建築学専攻

- | | |
|-----------|-----------------|
| | 情報メディア学専攻 |
| | ロボット・メカトロニクス学専攻 |
| 先端科学技術研究科 | |
| 博士課程（後期） | 数理学専攻 |
| | 電気電子システム工学専攻 |
| | 情報通信メディア工学専攻 |
| | 機械システム工学専攻 |
| | 建築・建設環境工学専攻 |
| | 物質生命理工学専攻 |
| | 先端技術創成専攻 |
| | 情報学専攻 |
- 2 前項に定める各研究科に、研究科規則を定める。
- 3 前項の研究科規則に、次の事項を記載する。
- (1) 研究科・専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
- (2) 学年・学期に関する事項
- (3) 教育課程に関する事項
- (4) 課程修了の要件
- (5) その他、大学院学則施行上の必要事項
- 第4条（課程の区分・修業年限）** 修士課程の標準修業年限は2年とし、工学研究科社会人コースにおいては3年とする。
- 2 博士課程（後期）の標準修業年限は3年とする。
- 第5条（課程の目的）** 修士課程は、広い視野にたつて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。
- 2 博士課程（後期）は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 第6条（最長在学年限）** 最長在学年限は、修士課程を4年、博士課程（後期）を6年とする。ただし、修士課程のうち工学研究科社会人コースにおいては6年を最長在学年限とする。
- 第7条（入学及び収容定員）** 各研究科の入学定員及び収容定員は、別表第1のとおりとする。

第3章 運営の機関

- 第8条（研究科委員長）** 各研究科に、研究科委員長を置く。
- 2 委員長の選出に関する規則は別に定める。
- 3 委員長は、当該研究科の校務をつかさどり、第10条に規定する研究科委員会を招集する。
- 第9条（大学評議会）** 大学評議会は、東京電機大学学則第8条の定めるところによる。
- 第10条（研究科委員会）** 各研究科に、研究科委員会を置く。
- 2 研究科委員会は、大学院担当の専任教員で組織する。
- 3 大学院担当の教員の資格・種別、その選考基準及び選考手続ならびに研究科委員会の組織

及び運営等については別に定める。

第 11 条（研究科委員会の役割、審議事項等） 研究科委員会は、次の事項のうち、その研究科に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学・修了に関する事項

（2）学位授与に関する事項

（3）前 2 号の他、大学院に関する重要事項で、その研究科の研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2 前項第 3 号の学長が研究科委員会に意見を聴くと定める事項は別に定める。

3 研究科委員会は、第 1 項の他、学長及び研究科委員長がつかさどる大学院等に関する次の事項のうち、その研究科に関する事項について審議し、意見を述べることができる。

（1）学生の転学・留学・休学・退学及び賞罰等に関する事項

（2）教育課程及び授業に関する事項

（3）試験及び学位論文審査に関する事項

（4）研究科委員会委員の人事のうち教育研究等の業績審査に関する事項

（5）委員長候補者の推挙に関する事項

（6）大学院学則及び研究科規則の改正に関する事項

（7）その他研究及び教育に関する事項

4 研究科委員会は、前各項の他、学長及び委員長が諮問した事項を審議する。

5 学長は、別に定める事項で通常の研究科委員会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第 4 章 学年、学期及び休業日

第 12 条（学年・学期） 学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

2 学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各研究科において定める。

第 13 条（休業日） 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

創立記念日 9 月 11 日

夏季休業

冬季休業

春季休業

2 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各研究科においてその都度定める。

3 必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

4 休業中でも、特別の必要があるときには、授業を行うことがある。

第5章 教育課程

第14条（授業科目・単位等） 各研究科における授業科目及び単位数は、各研究科規則において定める。

2 授業科目の単位数算定の基準については、本大学学則第22条を準用する。

3 授業科目の履修方法及び博士課程（後期）における必要な研究指導については、各研究科の定めるところによる。

4 本大学院は、授業並びに研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第15条（大学院の教育方法の特例） 各研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、標準修業年限の全期間にわたり、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第16条（他の大学院における授業科目の履修） 学生が各研究科の定めるところにより、他大学の大学院または外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その修得した単位のうち10単位を超えない範囲で、その研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第17条（入学前の既修得単位の認定） 学生が、本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、本大学院に入学した後の本大学院当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

第18条（他の大学院または研究所等における研究指導） 学生が、他の大学院または研究所等において課程修了に必要な研究指導の一部を受けることが教育上有益であると研究科委員会が認めた場合、当該大学院（もしくは研究科）または研究所等の協議に基づき、その研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。ただし、修士課程を除き、研究科委員会が教育上有益と認めた場合、さらに1年以内に限り延長を認めることができる。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等において研究指導を受けようとする場合に準用する。

第19条（学部等における授業科目の履修） 修士課程においては、教育上有益と当該研究科委員会が認めた場合で、次の各号に掲げる科目を修得したときは、当該研究科の修士課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(1) 本大学学部の科目

(2) 本大学院の他の研究科の科目

2 前項第1号の科目は、各修士課程の修了要件に含めないものとする。

第20条（教員の免許状取得資格） 教育職員の免許状を取得しようとする者は、本学で定めている教職課程に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

2 本大学院において取得できる免許状の種類は別表第2のとおりとする。

第6章 課程修了の要件とその認定

- 第21条（修士課程修了の要件）** 修士課程の修了要件については、修士課程を置く各研究科の研究科規則において定める。
- 第22条（博士課程（後期）修了の要件）** 博士課程（後期）の修了要件については、博士課程（後期）を置く各研究科の研究科規則において定める。
- 第23条（課程修了の認定・成績評価）** 課程修了の認定は、各研究科委員会が行う。
- 2 学位論文審査及び最終試験の成績評価は、各研究科委員会が定める手続、方法等に従い、当該研究科委員会から委嘱された論文審査委員及び最終試験委員が行う。
- 3 科目及び論文審査の評価は、次のとおりとする。
- 〔先端科学技術研究科〕
- （1）科目及び論文審査
- A 合 格
- B 合 格
- C 合 格
- D 不合格
- （2）最終試験
- 合 格
- 不合格
- 〔工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科〕
- （1）科目及び論文審査
- S 合 格
- A 合 格
- B 合 格
- C 合 格
- D 不合格
- （2）最終試験
- 合 格
- 不合格
- 第24条（学位の授与）** 本大学院の課程を修了した者には、「東京電機大学学位規程」の定める手続により、研究科委員会の議を経て修士または博士の学位を授与する。
- 2 博士課程（後期）を経ないで論文を提出し、博士の学位を請求した者に対する論文審査及び学力の確認は、「東京電機大学学位規程」及び「東京電機大学博士課程によらない学位請求の審査規程」の定めるところによる。

第7章 学位授与

第 25 条（学位の種類・名称）学位の種類及び名称は、別表第 3 のとおりとする。

第 8 章 入学、学籍の異動及び賞罰

第 26 条（入学の時期）入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

第 27 条（入学資格）修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (5) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 大学に 3 年以上在学し、又は、外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院当該研究科委員会が、特に優れた成績で所定の単位を修得したものと認めた者
 - (8) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
 - (9) その他本大学院当該研究科委員会が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 2 博士課程（後期）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 大学を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本大学院当該研究科委員会が、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (5) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (6) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
 - (7) その他本大学院当該研究科委員会が、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

第 28 条（入学志願手続） 入学志願者は、指定の期間内に、所定の入学志願手続をとらなければならない。

第 29 条（修士課程入学者の選考） 修士課程への入学者の選考は、学科試験、人物考査及び健康診断等の方法による選抜試験により行う。

2 学科試験は、主として筆記とし、必要があるときは口述を加えることがある。

3 筆記試験は、専門に関する学科目と外国語について行う。

第 30 条（博士課程（後期）入学者の選考） 博士課程（後期）への入学者の選考は、筆記試験、口述試験、修士課程における学業成績、修士論文、人物考査及び身体検査等の方法による選抜試験により行う。

第 31 条（入学手続） 入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書その他の必要な書類に別表第 4 に定める学費を添えて、入学手続をしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第 32 条（転学） 他の大学院の学生が、所属大学の学長または研究科の長の承認書を添えて本大学院に転学を志望したときは、選考の上、学年または学期の始めに入学を許可することがある。

2 学生が、他の大学院への転学を願い出たときは、事情によって許可することがある。

第 33 条（再入学） 大学院を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

第 34 条（留学） 学生が、外国の大学院等の授業科目の履修または研究指導を受けるために留学を願い出たとき、その学生の所属の研究科委員会が、本人の教育上有益であると認めた場合、許可することができる。

2 留学期間は 1 年を原則とし、その期間は 1 年を限度として、第 21 条もしくは第 22 条に定める在学年数に算入できる。

3 留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

第 35 条（休学） 傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書もしくは理由書を添え、休学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

2 休学は当該年度限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、各課程それぞれ 2 年を超えることはできない。

4 休学の理由が消滅したときには、復学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

5 休学期間は、在学年数に算入しない。

6 休学者は学期ごとに、60,000 円の在籍料を納入する。

第 36 条（退学） 傷病その他の理由により退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署の退学届を提出し、許可を受けなければならない。

第 37 条（除籍） 次の各号のいずれかに該当する者は除籍とする

(1) 第 6 条に定める最長在学年限を超えた者

- (2) 第 35 条第 3 項に定める通算休学期間を超えても復学しない者
- (3) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当な理由がなく、無届けで、引き続き 3 ヶ月以上欠席した者
- (5) 所定の学費の納入期日から起算して、3 ヶ月以内に学費を納入しない者

第 38 条（表彰） 学生として表彰に価する行為があった者については、学長または委員長は表彰することができる。

第 39 条（懲戒） 学則に基づいて定められている規則、規程等に違反し、あるいはその他学生としての本分に反する行為があった学生に対しては、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改悛の見込みがないと認められた者
 - (2) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第 9 章 科目等履修生

第 40 条（科目等履修生） 本大学院の学生以外の者で、本大学院で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、選考の上、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第 10 章 外国人特別学生

第 41 条（外国人特別学生） 外国人であって、第 27 条に定める入学資格がある者は、選考の上、入学を許可することができる。

第 11 章 学費及びその他の費用

第 42 条（学費及びその他の費用） 入学検定料、学費及び科目等履修費は別表第 4 のとおりとする。

- 2 学費とは、入学金及び授業料をいう。
- 3 博士の学位論文審査料については、別に定める。
- 4 学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。
- 5 すでに納入した学費その他の費用等は、返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
- 6 授業料は分納することができる。

新 入 生 へ
学 修 案 内
F M A
F M I
F M R
履 修 案 内
U N I P A
生 活 案 内
施 設
学 則 ・ 規 程
沿 革
校 歌 ・ 学 生 歌
キ ャ ン パ ス 案 内

第 12 章 改正及び雑則

第 43 条（改正） 本学則の改正は、第 11 条第 3 項に定める研究科委員会の意見を聴取し、評議会の議を経なければならない。

第 44 条（施行細則その他） 本学則の施行に必要な細則等は、別に定めることができる。

附 則（省略）
別表第 1 ～ 4 （省略）

2 東京電機大学大学院未来科学研究科規則

第1章 総 則

第1条（趣旨） 未来科学研究科規則は、東京電機大学大学院学則（以下「大学院則」という。）第3条第2項に基づき、未来科学研究科（以下「本研究科」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程、課程修了の要件その他大学院則施行上必要な事項を定める。

第2条（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的） 本研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

2 本研究科の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する建築学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、建築学の「建築計画・意匠」「建築構造・情報」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

(2) 情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

(3) ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

第2章 学年及び学期

第3条（学年・学期） 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2 学年を、次の2つに分ける。
- 前学期 4月1日から9月10日まで
- 後学期 9月11日から翌年3月31日まで

第3章 教育課程

第4条（授業科目・単位等） 本研究科における授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

第4章 成績及び修了

第5条（成績評価・単位認定） 本研究科は大学院則第23条に基づき、科目の成績評価を行う。

- 2 本研究科における、成績評価及びGPA（Grade point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90～100	S	4
80～89	A	3
70～79	B	2
60～69	C	1
0～59	D	0
放棄	—	0

第6条（修士課程修了の要件） 本研究科において修士課程を修了するには、2年以上在学し、自由科目を除き、所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。

- 2 前項の場合において、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

第5章 改正

第7条（改正） この規則の改正は、本研究科委員会の議を経なければならない。

附 則（省略）

別表第1（省略）

3 東京電機大学学位規程

第1章 総 則

第1条（目的） 本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条（学位の種類等） 本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学） 博士（理学）
博士（情報学）
修士（工学） 修士（理学）
修士（情報環境学） 修士（情報学）
学士（工学） 学士（理学）
学士（情報環境学） 学士（情報学）

第3条（学位の授与の要件） 博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

- 2 前項に規定する者のほか、本学大学院学則第24条第2項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。
- 3 修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。
- 4 学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第2章 学位の授与

第4条（学位の授与） 前条における大学院の修士課程及び博士課程（後期）の修了者については、本学大学院学則第24条第1項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第33条第1項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

第5条（論文提出による学位の授与） 第3条第2項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

第6条（課程の修了及び論文の審査の議決） 研究科委員会は、第3条第1項及び第3項によるものについては本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。

- 2 前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 4 第3条第2項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程

の定めるところに従って決する。

第7条（学長への報告） 研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

2 学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

第8条（学位記の交付） 学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第3章 論文の公表、学位の名称の使用

第9条（論文要旨等の公表） 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第10条（学位論文の公表） 博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文全文を公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りでない。

2 前項にかかわらず、博士の学位の授与を受けた者は、やむをえない事由がある場合には、研究科委員会の承認を受け、その論文全文に代えて要約したものを公表することができる。この場合、研究科はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学総合メディアセンターの協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

第11条（学位の名称の使用） 学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学）、博士（情報学）（東京電機大学）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士（情報環境学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）（東京電機大学）、学士（情報環境学）（東京電機大学）、学士（情報学）（東京電機大学）のように付記するものとする。

2 学位記の様式は、別表第1から別表第4のとおりとする。

3 外国人留学生に対し、本人からの申請に基づき、別表第1から別表第4の学位記に代えて、別表第5の様式で英語版学位記を交付する。

第4章 学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

第12条（学位授与の取消） 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消することができる。

第13条（学位記の再交付） 学位記（英語版も含む）の再交付は行わない。

第14条（学位授与の報告） 本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から3月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

2 本規程一部改正を行ったとき、文部科学大臣に報告するものとする。

付 則（省略）
別表第 1 ～ 5（省略）

新人生へ
学修案内
F M A
F M I
F M R
履修案内
U N I P A
生活案内
施 設
学則・規程
沿 革
校歌・学生歌
キャンパス案内

4 学生生活についての規程

第1条（目的） この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

第2条（学生に対する通知・連絡） 学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて1週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

第3条（学生証） 学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年4月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

2 学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

3 学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

4 学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

第4条（保証人） 学生は、入学手続き時に父母又は、これに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

第5条（現住所及び連絡先） 学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

第6条（学生による掲示） 学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

2 学内における学生の掲示場所は 所定の学生掲示板とする。

3 掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

4 新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

5 期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

第7条（学生による印刷物の発行・配布） 学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

第8条（学生の学内集会） 学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

ア 団体名

- イ 団体の責任者の氏名
- ウ 集会の目的
- エ 集会の場所
- オ 集会の日時
- カ 参加者の人数
- キ 学外者参加団体名及び人数
- ク その他

提出期限は原則として、開催日の1週間前とする。

- 2 集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。
- 3 集会は、東京千住キャンパスにおいては22時20分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては21時までとする。ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。
- 4 学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

- ア 団体名及び宿泊責任者の氏名
- イ 宿泊場所
- ウ 宿泊の目的
- エ 宿泊人数
- オ 宿泊する学生の氏名及び連絡先
- カ 宿泊する学生の保証人の連絡先

- 5 本条で認められている事項は、第10条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

第9条（学生の学外における正課外活動） 学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の1週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

第10条（団体の結成） 学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

- 2 団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。
- 3 学生の団体の継続については、毎年5月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工

新 入 生 へ
学 修 案 内
F M A
F M I
F M R
履 修 案 内
U N I P A
生 活 案 内
施 設
学 則 ・ 規 程
沿 革
校 歌 ・ 学 生 歌
キ ャ ン パ ス 案 内

学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したものとみなす。

付 則（省略）

5 東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第2条（救済奨学資金） この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（救済奨学生の選考・決定等） 救済奨学生は、東京電機大学大学院及び東京電機大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

- (1) 失業又は事業の倒産
- (2) 被災
- (3) 長期療養
- (4) 死亡
- (5) その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

2 救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第4条（救済奨学金の貸与額） 東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第一部、工学部第二部（平成17年度以前入学者）、理工学部及び未来科学部における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

2 東京電機大学工学部第二部（平成18年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

3 救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第5条（採用） 救済奨学生の採用は、原則として毎年4月又は10月とし、各校における在籍期間中1回とする。

第6条（救済奨学生の資格停止） 救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第7条（救済奨学生の資格取消） 救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（救済奨学金の返還） 救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した救済奨学金は無利子とする。

第10条（褒賞金の給付・返還の免除） 次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

- (1) 卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。
- (2) 卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2 救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第11条（事務） 救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第12条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

6 東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し(以下貸与された者を「支援奨学生」という。)、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第2条（支援奨学資金） この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（支援奨学生の推薦・決定等） 支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

- (1) 本学主催の海外英語短期研修に参加する者
- (2) 自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者
- (3) その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

2 支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 所定修業年限を超えて在学している者

3 支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第4条（支援奨学金の貸与額） 支援奨学金の貸与額は、30万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

2 支援奨学金は前条第1項の各号に定める使途に充当しなければならない。

第5条（採用） 支援奨学生の採用は、各校における在学期間中1回とする。

第6条（支援奨学生の資格停止） 支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第7条（支援奨学生の資格取消） 支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（支援奨学金の返還） 支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した支援奨学金は無利子とする。

第10条（事務） 支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

7 東京電機大学大学院奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、東京電機大学大学院学生に対し奨学金を貸与し（以下貸与された者を「貸与奨学生」という。）、もって有為な人材の育成に資することを目的とする。

第2条（奨学資金） この規程による奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（貸与奨学生の選考・決定） 貸与奨学生は、東京電機大学大学院の学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、学費の支弁が困難である者のうちから採用する。
ただし、次の各号のいずれかに該当する者は除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 修士課程2年、博士後期課程3年の修業年限を超えて在学している者

2 貸与奨学生は、大学院各研究科委員会の選考を経て、学長がこれを決定する。

第4条（奨学金の貸与額） 奨学金の貸与額は、当該授業料の2分の1以内の額とする。ただし、特別奨学金の受給者は、本貸与奨学金との合計額が授業料の全額を超えることはできない。
2 奨学金は授業料に充当しなければならない。

第5条（採用） 奨学生の採用は、当該年度限りとする。ただし、引き続き採用することを妨げない。

第6条（貸与奨学生の資格停止） 貸与奨学生が休学したときは、貸与奨学生の資格を停止する。
この場合、既に貸与した奨学金を返還させることができる。

第7条（貸与奨学生の資格取消） 貸与奨学生が次の各号のいずれかに該当し、貸与奨学生として不適格と認められたときは、貸与奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 貸与奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により貸与奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（奨学金の返還） 奨学金の返還は、元金均等年賦返済とする。

2 奨学金の返還に係る手数料は、奨学生負担とする。
3 返還期間は、修士課程、若しくは博士後期課程を修了（或いは満期退学）した年度の翌年度から起算し5年間とする。ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した奨学金は無利子とする。

第10条（事務） 貸与奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

第7章 沿 革

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿
革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 沿 革

1907.9. (明治 40 年)	・ 東京・神田に電機学校創立 (9 月 11 日)
1949.4. (昭和 24 年)	・ 東京電機大学開設<工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置>
1950.4. (昭和 25 年)	・ 東京電機大学短期大学部開設<電気科第二部設置>
1952.4. (昭和 27 年)	・ 工学部第二部開設<工学部第二部電気工学科設置>
1956.2. (昭和 31 年)	・ 東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958.4. (昭和 33 年)	・ 東京電機大学大学院 (夜間) 開設<工学研究科電気工学専攻 (修士課程) 設置>
1960.4. (昭和 35 年)	・ 工学部第一部電子工学科設置
1961.4. (昭和 36 年)	・ 工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置 ・ 工学部第二部電気通信工学科設置
1962.4. (昭和 37 年)	・ 大学院工学研究科博士課程開設<電気工学専攻 (博士課程) 設置> ・ 工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965.4. (昭和 40 年)	・ 工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975.4. (昭和 50 年)	・ 工学研究科電気工学専攻 (修士課程) (昼間) 設置
1977.4. (昭和 52 年)	・ 鳩山キャンパス開設、理工学部開設<数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置>
1981.4. (昭和 56 年)	・ 理工学研究科開設<数理学専攻 (修士課程)・システム工学専攻 (修士課程)・建設工学専攻 (修士課程)・機械工学専攻 (修士課程) 設置> ・ 総合研究所開設
1983.4. (昭和 58 年)	・ 理工学研究科博士課程開設<応用システム工学専攻 (博士課程) 設置>
1984.4. (昭和 59 年)	・ 理工学研究科数理学専攻 (博士課程) 設置
1986.4. (昭和 61 年)	・ 理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990.4. (平成 2 年)	・ 千葉ニュータウンキャンパス開設 ・ 工学研究科情報通信工学専攻 (修士課程)・電子工学専攻 (修士課程) 設置 ・ 理工学研究科情報科学専攻 (修士課程)・応用電子工学専攻 (修士課程) 設置
1991.4. (平成 3 年)	・ 工学研究科機械システム工学専攻 (修士課程)・物質工学専攻 (修士課程) 設置
1992.4. (平成 4 年)	・ 工学研究科情報通信工学専攻 (博士課程)・電子工学専攻 (博士課程)、建築学専攻 (修士課程) 設置 ・ 理工学研究科数理学専攻 (博士課程) を数理科学専攻 (博士課程) に名称変更
1993.4. (平成 5 年)	・ 工学研究科機械システム工学専攻 (博士課程)、物質工学専攻 (博士課程) 設置 ・ 工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
1995.4. (平成 7 年)	・ 工学研究科建築学専攻 (博士課程) 設置

1997.4. (平成 9 年)	・ 超電導応用研究所、建設技術研究所設立 ・ 産官学交流センター設立	新人生へ
1997.6. (平成 9 年)	・ ハイテク・リサーチ・センター設立	学修案内
1999.4. (平成 11 年)	・ 理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を智能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更 ・ フロンティア共同研究センター設立	FMA
2000.4. (平成 12 年)	・ 理工学部生命工学科、情報社会学科設置	FMI
2001.4. (平成 13 年)	・ 情報環境学部開設<情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置> ・ 大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置	
2002.4. (平成 14 年)	・ 工学部第一部情報メディア学科設置 ・ 工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更 ・ 理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置 ・ 理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を智能機械工学専攻（修士課程）に名称変更	FMR
2003.4. (平成 15 年)	・ 理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更	UNIPA
2004.4. (平成 16 年)	・ 情報環境学研究科（修士課程）開設<情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置> ・ 工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置 ・ 理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置 ・ 超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更	
2005.7. (平成 17 年)	・ 東京電機大学短期大学廃止 ・ 工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止	生活案内
2006.4. (平成 18 年)	・ 先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設<数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置>（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止） ・ 理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更 ・ 情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）	施設
2007.4. (平成 19 年)	・ 学園創立 100 周年（9 月 11 日） ・ 未来科学部開設<建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置> ・ 工学部開設<電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置>（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質	学則・規程
		沿革
		校歌・学生歌
		キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止)

- ・理工学部理工学科設置< 4 学系体制:サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系> (※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止)
- ・工学部第二部電気電子工学科設置 (※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止)
- ・未来科学研究科(修士課程)開設<建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置>
- ・工学研究科電気電子工学専攻(修士課程)設置 (※工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)、精密システム工学専攻(修士課程)、情報メディア学専攻(修士課程)、建築学専攻(修士課程)の学生募集停止)
- ・理工学研究科理学専攻(修士課程)、情報学専攻(修士課程)、デザイン工学専攻(修士課程)、生命理工学専攻(修士課程)設置 (※理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、電子情報工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の学生募集停止)
- ・情報環境学研究科情報環境学専攻(修士課程)設置 (※情報環境学研究科情報環境工学専攻(修士課程)、情報環境デザイン学専攻(修士課程)の学生募集停止)
- ・理工学部理工学科学系再編< 5 学系体制:理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編>
- ・工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)の廃止
- ・理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の廃止
- ・工学研究科情報メディア学専攻(修士課程)の廃止
- ・建設技術研究所の廃止
- ・工学研究科精密システム工学専攻(修士課程)、理工学研究科電子情報工学専攻(修士課程)、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻(修士課程)の廃止
- ・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止
- ・東京千住キャンパス(100 周年記念キャンパス)開設(先端科学技術研究科(東京神田キャンパス所属)、工学研究科(修士課程)、未来科学研究科(修士課程)、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転)

- ・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
- ・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止
- 2012.10.（平成 24 年）・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立。
- 2013. 4.（平成 25 年）・理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）、建築・都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
- ・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
- ・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
- ・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止
- 2013. 9.（平成 25 年）・工学部第一部環境物質化学科の廃止
- 2014. 4.（平成 26 年）・工学部第一部電気工学科の廃止
- ・理工学部生命工学科の廃止
- 2014. 8.（平成 26 年）・インスティテューショナル リサーチ センター設立
- 2014. 9.（平成 26 年）・工学部第一部建築学科の廃止
- ・理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の廃止
- 2015. 4.（平成 27 年）・工学部第一部情報メディア学科の廃止
- ・工学部第二部電気工学科の廃止
- 2015. 9.（平成 27 年）・工学部第一部機械工学科の廃止

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第 8 章

大学校歌・学生歌

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 東京電機大学校歌

歯切れよく 雄大に

草野心平 作詞

平岡照章 作曲

1. に ち り ん は て ん に か が や き
2. て ん た い は い よ よ ち か づ き

は く う ん は ふ じ に わ き た つ と も が ら よ
め ぐ る し き じ か ん は は や し と も が ら よ

ま ゆ あ げ よ お 、 い な る れ き し の な か で
ゆ め も て よ お 、 い な る じ く う を め ぎ し

わ れ ら あ た ら し い し ん り を つ く る 一 と う き ょ
わ れ ら あ た ら し い ふ ん か を つ く る 一 と う き ょ

う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ
う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ

あ 一 た た え ん か な そ の 一 で ん と う 一
あ 一 さ ん ぜ ん た り そ の 一 み ら い 一

東京電機大学校歌

一、日輪は 天にかがやき
白雲は 富士に沸きたつ
朋がらよ 眉あげよ
大いなる 歴史のなかで
われら新しい 真理を創る
東京電大 われらが母校
あゝ讃えん哉

その伝統

二、天体は いよよ近づき
めぐる四季 時間は早し
朋がらよ 夢もてよ
大いなる 時空をめざし
われら新しい 文化を創る
東京電大 われらが母校
あゝ燦然たり

その未来

2 東京電機大学学生歌

望月直文 作詞

田辺尚雄 作曲



1. ミヨニッポンノ アサ ボラケ ジュウ ノ テンチ ココニア
2. きけたそがれの かね のこえ へいわ の いのり ここにあ
3. アアイクマンノ ハラ カラヨ ワレラ ノ ホコリ ココニア



リ レイ ロ ウ フー ジ ャー アオ ギ ツ ツ
リ あー い とー まこ とをー たた え つ つ
リ シン リ ャー キー ワ メー ワザ ャ ネ リ



キ ョ キ コ コ ロ ノー ワ カ ウ ド ハ ジリッ キョーワノ
あつき ちし ほ のー わ か う ど は つくや ひびきも
モ ュ ル キ ボ ウ ノー ワ カ ウ ド ハ イマキ ンテツノ



ハ タ タ カ ク ミンシュノセカイ サキガケン
おーらかに くおんのりそう ぐげんせん
イシカタク ブンカノハギョウ ナシトゲン

東京電機大学学生歌

一、見よ日本のあさばらけ

自由の天地ここにあり

玲瓏富士を仰ぎつつ

高潔き心の若人は

自律協和の旆高く

民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音

平和の祈願ここにあり

信愛と誠実をたたえつつ

熱き血潮の若人は

撞くや響もおほらかに

久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ

我等の誇りここにあり

真理を究め技術を練り

燃ゆる希望の若人は

今金鉄の意志かたく

文化の覇業なしとげん

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第9章

東京千住キャンパス案内

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

東京千住キャンパス案内

東京千住キャンパスは、4つの建物と別館（東京千住アネックス）で構成されています。
ここでは主に、4つの建物の「教室部分」についてのみ紹介します。

部屋番号の表現について

教室には「部屋名称」と「部屋番号」が与えられています。
建物ごとの特質に合わせて二つの値が使い分けられています。

名称	説明、構造について
部屋名称	例：1204 セミナー室 / 2504 教室 部屋毎の名称です。 「●●研究室」、「教員室●●」、「カフェラウンジ」、「体育館等」、「1204 セミナー室」等の名称がこれに相当します。 DENDAI-UNIPA 上で表示されるのはこちらの名称です。
部屋番号	例：10204 / 20504 部屋に通しで振られている5桁の番号です。 東京千住キャンパスでは2号館を除き、部屋の入口やフロア配置図などに表示しています。1桁目＝建物番号、2桁目・3桁目＝階数、4桁目・5桁目＝同一フロア内の連番（その後にA、B等の枝番がある場合もあります）。 「10107」は1号館1階の7番目の部屋、 「11017B」は1号館10階17番目の部屋のうち、Bの部屋という意味です。

注意：部屋番号ではなく、部屋名称が表示されている場合があります。
 「2301 教室」などの「教室」は4桁で表記されています。
 この場合、左から1桁目＝建物番号、2桁目＝階、3桁目・4桁目＝同一フロア内の連番

実験室、実習室、ゼミ室、研究室、教員室や千葉ニュータウンキャンパスの教室等について

各号館・各フロアの壁面にあるフロア別案内図や工学部・未来科学部事務部のホームページにて確認してください。

【工学部・未来科学部事務部ホームページ】→【学生要覧】→【建物別フロア案内】の項にある各フロアのページを確認してください。

<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/index.html>

東京千住キャンパス配置図

【2号館】（教育棟）

- 10F 教室・学生ラウンジ
- 9F 教室
- 8F 教室
- 6F 教室
- 5F 教室
ルーフガーデン 2
- 4F PC教室・PCカウンター
- 3F 教室
講師室
工学部・未来科学部事務部
学生支援センター
国際センター
健康・学生相談室
学生ラウンジ
- 2F 総合メディアセンター
図書館
- 1F 受付
IRセンター
- B1F 駐輪場

【3号館】

（厚生棟・学生会館・体育館）

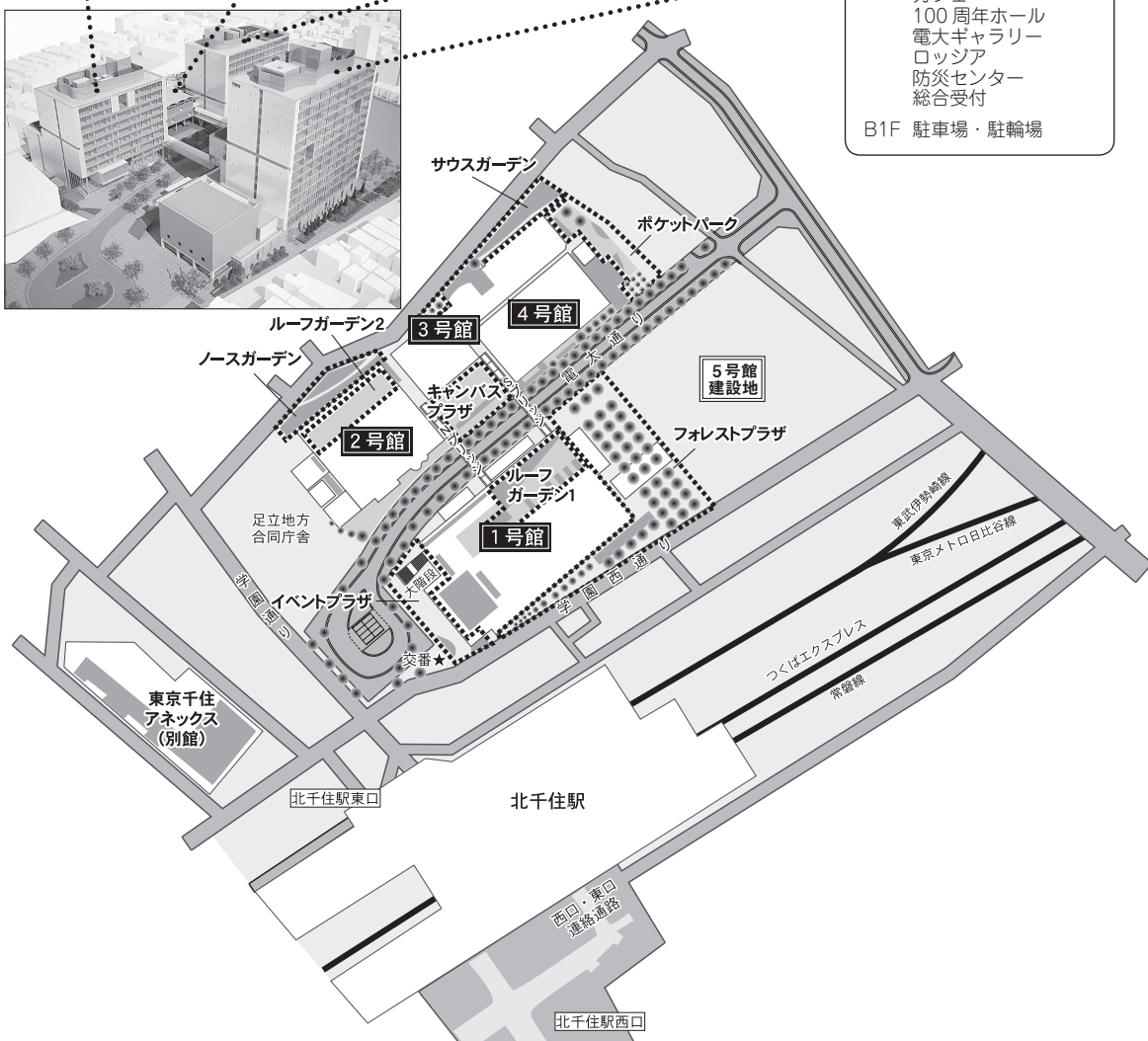
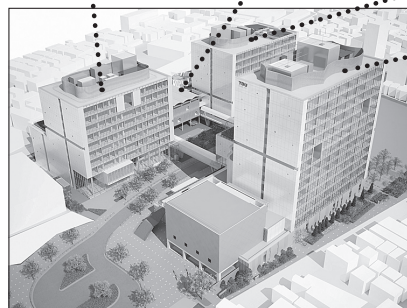
- 4F 学生部室
- 3F 学生部室
売店
学生ラウンジ
- 2F 体育館
トレーニング室
食堂
- M2F 学生部室
食堂
- 1F 武道場
学生部室
カフェ

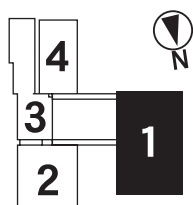
【4号館】（研究棟）

- 10F 教員室・研究室
- 9F 教員室
- 8F 教員室・研究室
- 6F 実験室・実習室
- 5F 実験室・実習室
- 4F 学習サポートセンター
教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
- 2F 教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
- 1F 実験室・実習室
受付

【1号館】（複合棟）

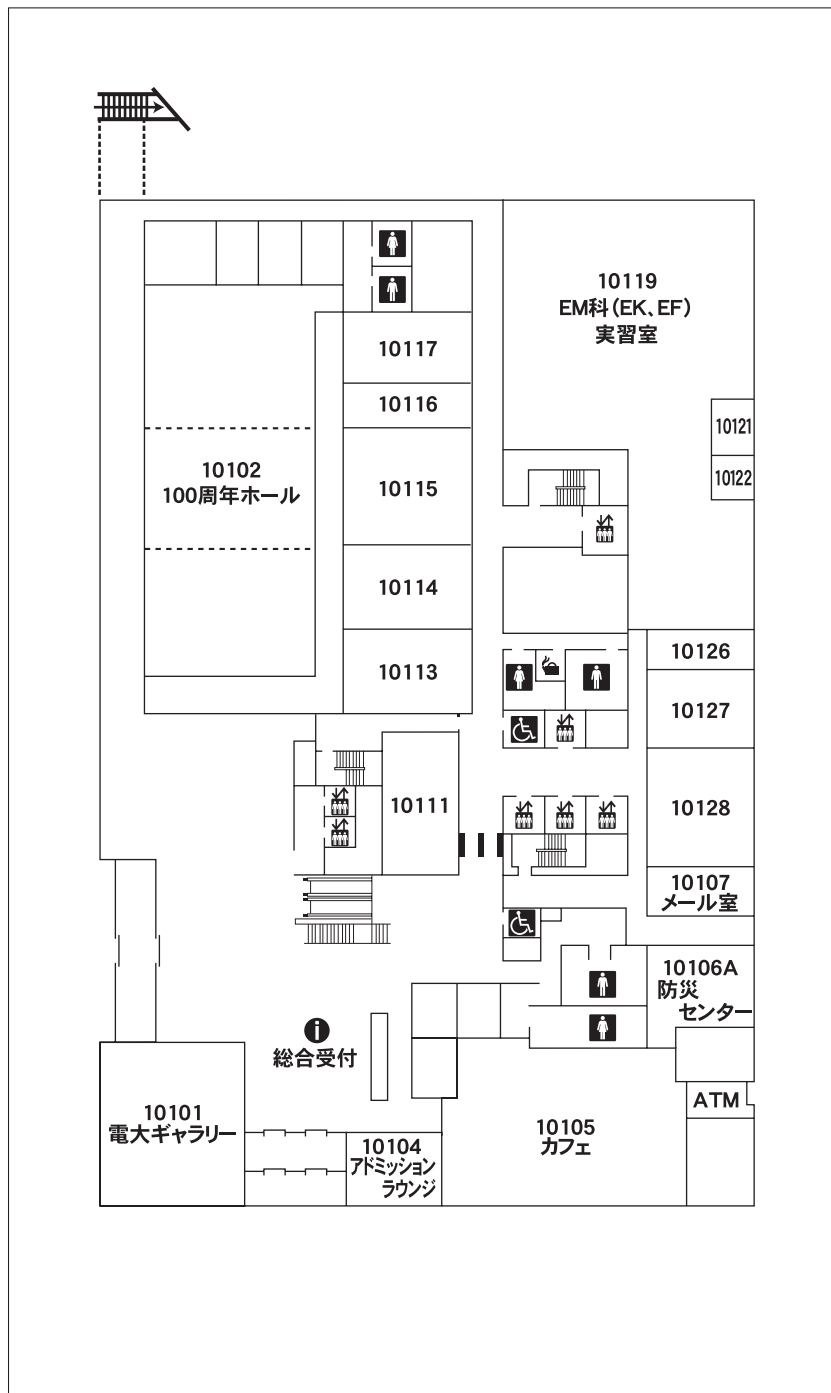
- 14F 教員室・研究室
セミナー室
- 13F 教員室・研究室
- 7F 実験室・実習室
学生ラウンジ
ルーフガーデン
- 5F 実験室・実習室
法人本部
- 4F 実験室・実習室
セミナー室
入試センター
国際センター
大学本部
- 3F 実験室・実習室
ワークショップ教室
カシオホール
- 2F 丹羽ホール
セミナー室
校友会
- 1F 実験室・実習室
カフェ
100周年ホール
電大ギャラリー
ロジック
防災センター
総合受付
- B1F 駐車場・駐輪場





1号館 フロア案内

1 階

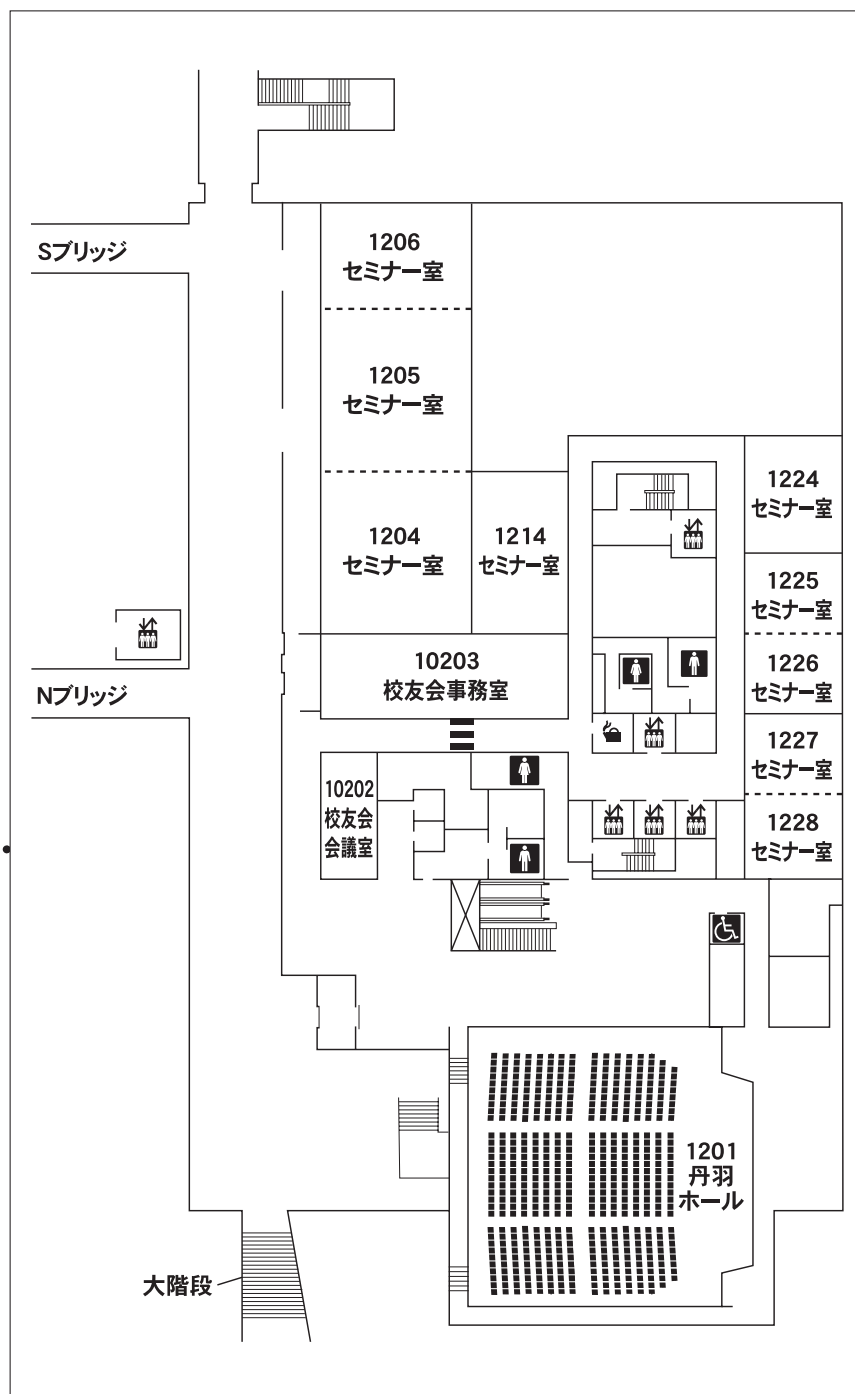


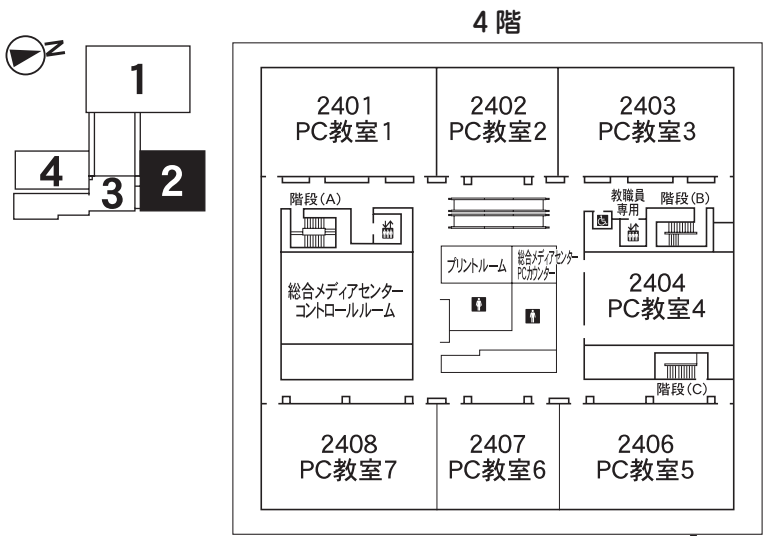
RF	
14F	
13F	
12F	
11F	
10F	
9F	
8F	
7F	
6F	ルーフガーデン1
5F	経理部（会計）
4F	国際センター 入試センター
3F	カシオホール・ 共用会議室 他
2F	デッキ 校 友 会
1F	交流施設 100周年ホール・カフェ
B1	

2 階

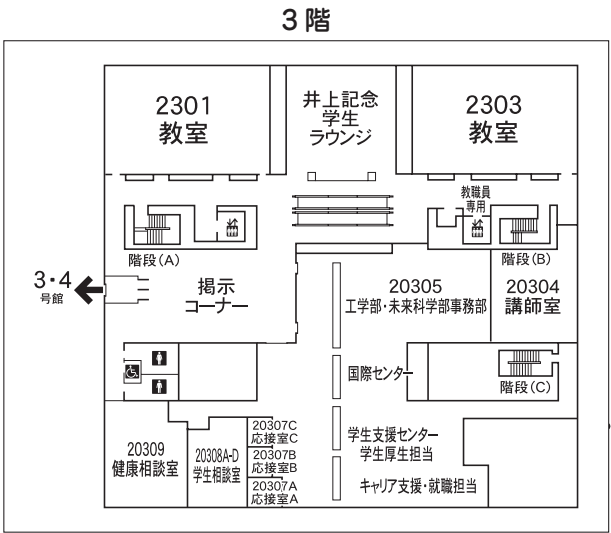
1号館			
法人	教員室・研究室 (EC, FI, FR+未来共通)		
	教員室・研究室 (EE (EJ, EH))		
	教員室・研究室(EC)		
	教員室・研究室(FI)		
	教員室・研究室(FR)		
	教員室・研究室 (EM (EK))		
	教員室・研究室 (EM (EK, EF))		
	教員室・研究室・実習室(FA)		
ラウンジ	教員室・研究室・実習室 (FA+未来共通)		
	実験室・実習室(EC, FI)		
	ゼミ室	実験室・実習室 (FI, FR)	
	実験室・実習室 (EM(EK, EF), FR)		丹羽 ホール
	セミナー室		
	実験室・実習室 (EM (EK, EF), EC)		ロジャ
駐車場他	駐車場		

国際センター千住ラウンジ





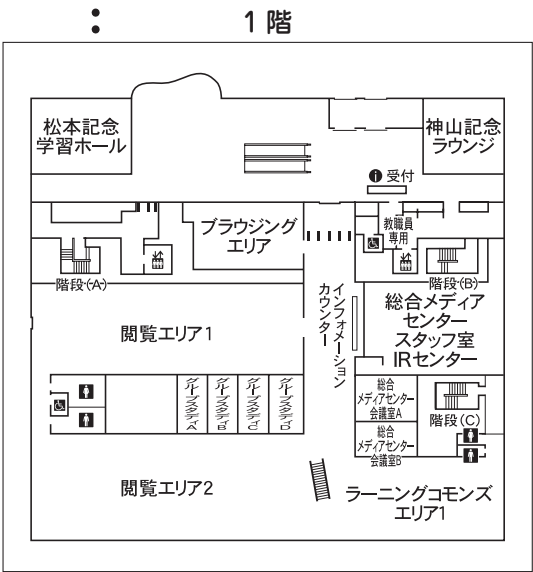
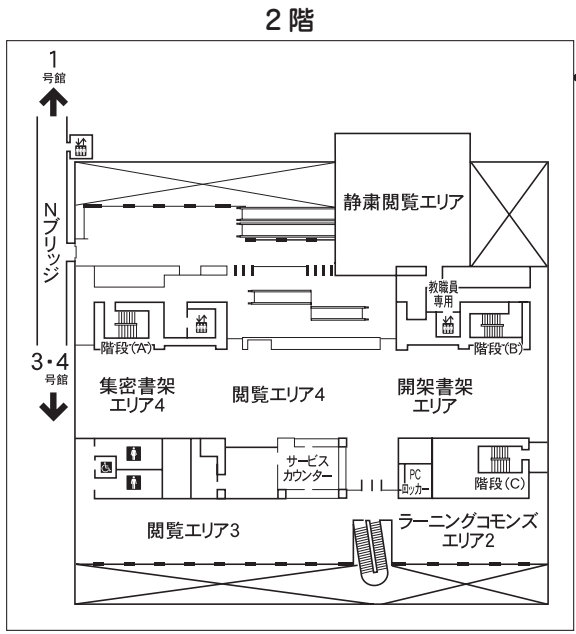
2号館 フロア案内



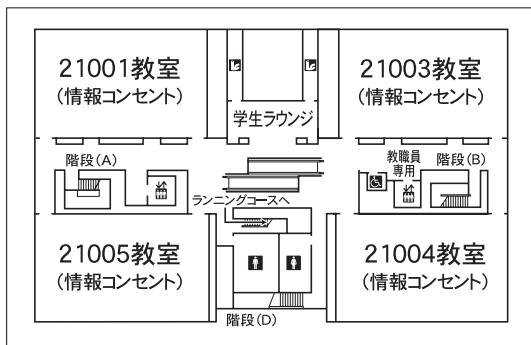
2号館

屋上ランニングコース

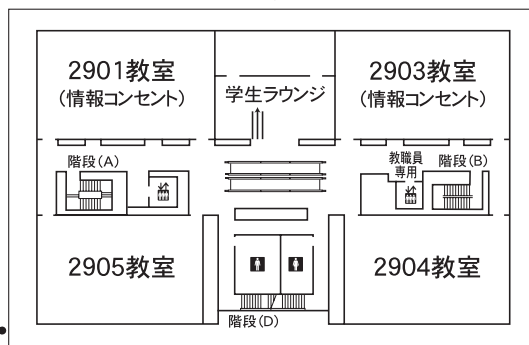
	RF
教室	10F
教室	9F
教室	8F
教室	7F
教室	6F
教室	5F
PC教室 総合メディアセンター	4F
教室 ラウンジ	3F
総合メディアセンター・図書館	2F
総合メディアセンター・図書館・IRセンター	1F
駐車場	



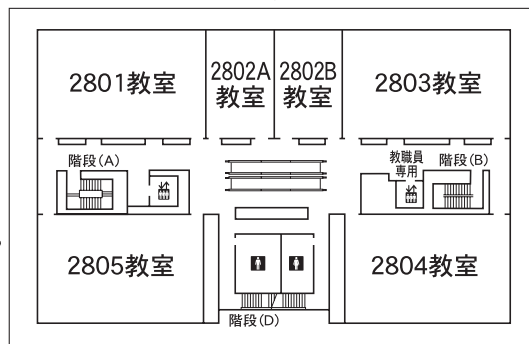
10階



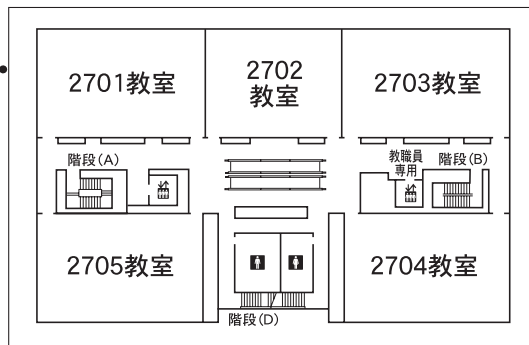
9階



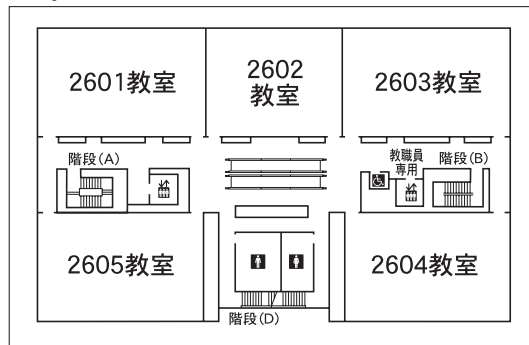
8階



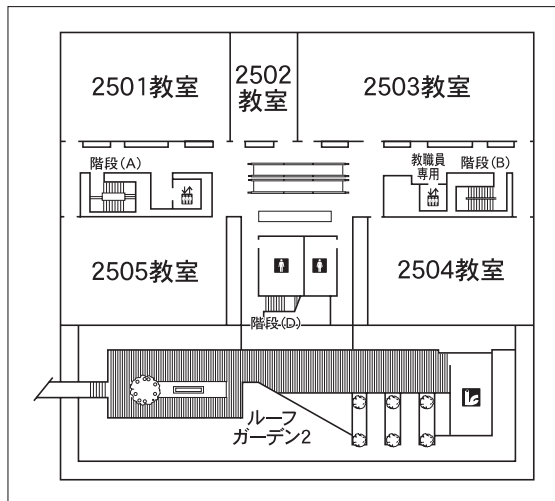
7階



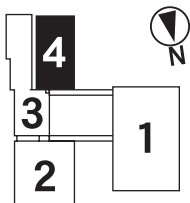
6階



5階

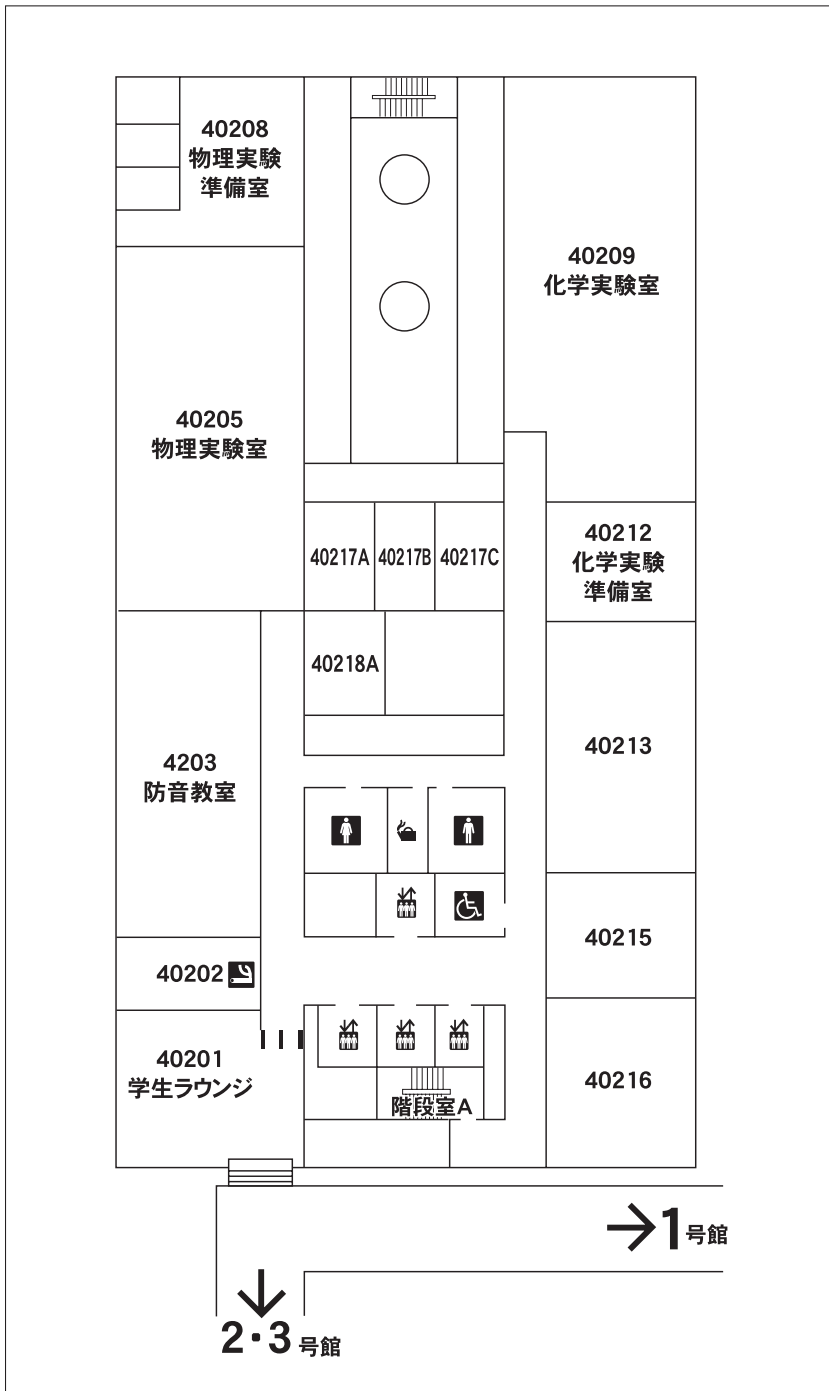


工学部・未来科学部事務局、講師室
学生支援センター(学生厚生担当)
学生支援センター(キャリア支援・就職担当)
学生相談室、健康相談室
国際センター、掲示コーナー



4号館 フロア案内

2階

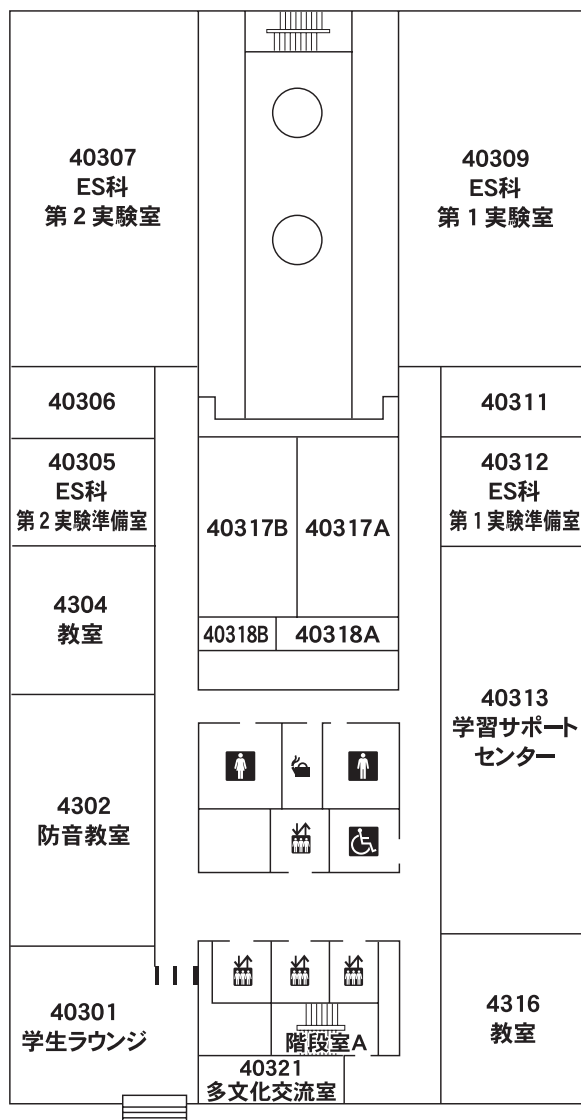


4号館

特殊設備ゾーン
(二点鎖線枠内)

	RF
共通教育 (I,b)	10F
共通教育 (g,f)	9F
研究室・教員室 (EE (EJ, EH) 共通教育(b))	8F
研究室・教員室 (EE(EJ,EH),EC,EM) (EE(EJ,EH),EC,EM+b)	7F
研究室・教員室 (ES)	6F
実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	5F
電気室 実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	4F
教室、学習 サポートセンター 実験室・実習室 (ES+共化)	3F
教室 実験室・実習室 (ES,b,共化)	2F
防音室 学生団体 実験室・実習室 (EM(EK,EF)) ((EE(EJ,EH))+ (EM(EK,EF),FA))	1F

3 階



↓
2・3号館

大学キャンパス所在地

東京千住キャンパス

〔大学（工学部、工学部第二部、未来科学部）・大学院（工学研究科、未来科学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

工学部・未来科学部事務部	03-5284-5333
学生支援センター（学生厚生担当）	03-5284-5340
学生支援センター（キャリア支援・就職担当）	03-5284-5344
総合メディアセンター（図書）	03-5284-5377
総合メディアセンター（コンピュータ）	03-5284-5372
経理部（会計担当）	03-5284-5131

千葉ニュータウンキャンパス

〔大学（情報環境学部）・大学院（情報環境学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒270-1382 千葉県印西市武西学園台2-1200

TEL：0476-46-4111

埼玉鳩山キャンパス

〔大学（理工学部）・大学院（理工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

TEL：049-296-0042

本冊子は新入生のみに配布されます。
修了するまで大切に取扱いください。
また、年度毎に変更がある場合は別途
お知らせします。



未来科学研究科

TDU